

# 全日本医師剣道連盟報

— 第31号 —



黄昏の新潟



## 全日本医師剣道連盟

全日本医師剣道連盟 新役員

会長：	野見山 延	(教士 8 段, 神奈川)	九州大学
副会長：	空席		
監査：	稲村 征夫	(教士 7 段, 東京)	東京医科大学
事務局長：	塚原 清彰	(錬士 6 段, 東京)	東京医科大学
幹事長：	空席		
幹事：	池澤 清豪	(教士 8 段, 北海道)	東京医科大学
	石井 靖隆	(教士 7 段, 京都)	鳥取大学
	今村 幹雄	(教士 7 段, 宮城)	東北大学
	枝重 恭一	(教士 7 段, 高知)	大阪医科大学
	荻荘 則幸	(教士 7 段, 新潟)	弘前大学
	荻原 一郎	(教士 7 段, 東京)	東京慈恵会医科大学
	奥島 憲彦	(教士 7 段, 沖縄)	熊本大学
	笠松 紀雄	(教士 7 段, 静岡)	千葉大学
	加野 資典	(教士 7 段, 福岡)	九州大学
	菅 義行	(教士 7 段, 岩手)	帝京大学
	久保田 暢人	(教士 7 段, 兵庫)	岡山大学
	新藤 寛	(教士 7 段, 千葉)	千葉大学
	谷木 利勝	(教士 7 段, 高知)	徳島大学
	林 明人	(錬士 6 段, 茨城)	順天堂大学
	日高 久光	(教士 7 段, 福岡)	久留米大学
	堀江 貴	(教士 7 段, 島根)	鳥取大学
	箕田 修治	(6 段, 熊本)	熊本大学
	宮坂 信之	(教士 7 段, 東京)	東京医科歯科大学
	宮坂 昌之	(教士 8 段, 大阪)	京都大学
	森 能史	(錬士 6 段, 大阪)	久留米大学
	諸木 浩一	(教士 7 段, 鹿児島)	熊本大学
	萬木 信人	(教士 7 段, 長崎)	長崎大学
	吉村 了勇	(教士 7 段, 奈良)	京都府立医科大学

※ 瀬尾憲司先生（錬士 6 段，広島・東邦大学）は、令和 5 年 4 月にご逝去なされました。  
ご冥福をお祈り申し上げます。

## 全日本医師剣道連会長を拝命して

全日本医師剣道連盟 会長 野見山 延



皆様、令和4年4月の幹事会で会長に選任していただきました。前会長故大柵廣伸先生より副会長にとのたっのご要望があり、おうけさせていただきましたが、大柵先生のほうが年齢が若く、今後会長をお受けするような機会があるとしてもまだいぶ先のこととと思っていました。ところが大柵先生が急にお亡くなりになり、会長という大役を任されることとなりました。大柵先生から何度もお話をいただいていたのはなにかご自分の体調などを感じられるものがあったのかもしれません。しばらくはとまどっておりましたが、長年こ

の会に参加させていただいてきたことへのお礼の気持ちを込めて、大柵先生のご期待にそえるかどうかはわかりませんが、できるだけのことをやろうと思えるようになりました。幸い、事務局長として経験豊富な林先生にも全面的に協力しますといただき心強い限りです。また以前よりこの方は次代をお願いできる方だと感じていた東京医科大学の耳鼻咽喉科・頭頸外科学教授塚原清彰先生に事務局長をお願いできることとなりました。お二人の力があれば私は寝ていてもいいなといまは安心して居る次第です。

私が全日本医師剣道大会にはじめて参加させていただいたのは昭和51年新潟で行われた第11回大会からだったと記憶しております。まだ福岡から神奈川へ移り、北里大学へ勤務して2年少しだったころです。大会中は家内と子供たちは白山公園で遊び、大喜びでした。その後ほとんどの大会に参加させていただきました。大柵一郎先生や鬼倉先生はじめ範士の先生方に可愛がっていただきました。東京の山崎先生には棚谷昌美範士とのご縁もあり医師剣道連盟の歴史をはじめいろいろなことをおしえていただきました。京都の根本先生には「剣道の神髄、剣道はしないものが一番強い（何でも言える）」などユーモアあふれる中にと



でも鋭いお話をたくさんいただきました。

大会に参加した中でいまも強烈に印象に残っているのは平成13年熊本大会での大柰一郎先生と笹原登先生の立ち合いでした。当時笹原先生は杖を2本使われていたと思いますが、竹刀を持たれるときちんと構えられ、そのお姿はとても杖を使って歩かれる方とは思えないものでした。お二人あわせて確か180歳を超えるとアナウンスがあったと思います。医師で剣道が続けるということはすごいことなんだと感激しました。その後も親しみを込めて「妖怪」とお呼びさせていただいた、高齢にして、年齢を感じさせない剣道を披露される先輩がたくさんいらっしゃり、いくつになっても私は若輩者だと思っていました。いつの間にか年齢はうしろから10番以内に入っています。

大会会長が1年間連盟会長を兼任する形式が永く続き、その後現在の連盟会長が別に活動することになり伊藤元明先生、鏡山博行先生、大柰廣伸先生と継承され、私が今回お引き受けすることとなりました。私に先輩会長はじめ皆様のような力があるとは思えませんが、山崎先生、根本先生から忘れていけないといわれた、「この会は医師が医師として剣道を学び、皆で楽しく稽古をする会だ」のお言葉どおりに継続していけるよう微力ながら頑張りたいと思います。何卒皆様のご指導をお願いいたします。



## 全剣連について

公益財団法人全日本剣道連盟  
専務理事 中谷行道



1952年（昭和27年）生まれ  
1971年（昭和46年）大阪府立三国丘高校卒業  
1975年（昭和50年）東京大学法学部第1類（私法コース）卒業  
1976年（昭和51年）同第2類（公法コース）を卒業し、日本不動産銀行（現あおぞら銀行）に入行、その後、銀行役員兼投資会社社長、警備会社社長等を経て  
2017年（平成29年）全日本剣道連盟常任理事  
2019年（令和元年）同専務理事、現在に至る

### 1. 自己紹介

公益財団法人全日本剣道連盟（全剣連）の専務理事を仰せつかっています中谷と申します。この度は寄稿の機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。折角の機会なので、全剣連の現状や課題について、ご報告しようと思いますが、その前に、私自身について若干の自己紹介をさせていただきます。

私は小学校5年生から剣道を始めました。両親の勧めですが、理由を聞いたことがないのでなぜ勧められたかは分かりません。最初に入門した剣友会では、二人の方が代表となっていて、そのうちのお一人が中村さんというお医者さまでした。母は保健師をしていたので医師の方に知り合いが多く、その縁で剣道を紹介されたのかもしれませんが。剣友会代表の中村医師も母の知人でした。推測が当たっていれば、私の剣道のきっかけはお医者さまということになります。

剣道はすぐに好きになりました。試合では市の大会で好成績を上げた程度で、語るほどの戦績はありませんでしたが、その後中学校、高校、大学と熱心に稽古を続けました。

大学卒業後に銀行に就職しました。人事の採用責任者である大学剣道部の先輩から誘われ、また頭取も剣道部の先輩で、しかも私をかわいがってくれた方の親友であったこともあり、お誘いに応じました。銀行の剣道部は、実質的な部員は数えるほどで、入行前の宣伝と違いあまり活発ではありませんでした。

その上仕事はかなりハードでした。深夜残業は当たり前、帰宅が2時、3時と未明になることも多々ありました。私は経営企画畑が長かったのですが、監督官庁との折衝準備のため、銀行に泊まり込む日が1ヶ月くらい続くこともありました。そんなことを言い訳にして、社会人になってからは稽古の数もめっきり減りました。それでも、海外を含む転勤先には必ず剣道具を担いで行きましたし、大学対抗のOB戦やOB大会にも何回か出場させてもらいました。

銀行役員を退任した後いくつかの事業会社の経営に携わったのですが、それも終わったあと小さな会社の「頼まれ社長」をしていました。そんな折、全剣連の役員から全剣連で仕事をするよう話がありました。剣道は続けていたし、大学OB間の交流などを通じ専門家の先生にも多少知己はありましたが、剣道界全体を考える立場ではありません。それで、お誘いには躊躇したのですが、結局引き受けました。その2年後、前任者から専務理事に就任しろとの話がありました。重責でもあり、この時もやはり躊躇したのですが、何回も声を掛けられたため、専務理事就任をお引き受けし、現在に至っています。

## 2. 全剣連の今

全剣連はご存知の通り、剣道、居合道、杖道（剣道等）を統括する団体として、様々な事業を行っています。

### 全剣連の各委員会

全剣連の事業は全剣連内の専門委員会が中心になって運営しています。

みなさまに身近と思われる一部をご紹介しますと、普及事業並びに全日本選手権及び京都演武大会など大会運営に関することは普及委員会、審判に関するルール作りや大会での審判に関しては試合・審判委員会、称号や段位審査に関するルール作り、実際の審査会運営は称号・段位委員会、指導者育成は指導育成委員会指導者育成本部、社会体育指導員養成に当たっては社会体育指導員委員会などです。

2024年には6年ぶりに世界大会が開催されますが、その代表選手を育成・強化するのが、指導育成委員会選手育成強化本部です。海外への剣道普及や国際剣道連盟の活動のサポートを担当するのが国際委員会、その他、学校教育部会、女子委員会、広報委員会、医・科学委員会やアンチ・ドーピング委員会などがあります。医・科学委員会については後述します。

専務理事は会長をサポートして、これら委員会やその活動を、統制、調整する役割を担っています。また、全剣連事務局は各委員会の実際の活動、例えば大会や審査会の運営の実務を行っています。

## ガバナンスコード及び公益財団法人への移行

令和元年6月、スポーツ庁はスポーツ団体が遵守すべきものとしてガバナンスコードを制定しました。簡単に言えば、スポーツ団体に、ガバナンス（適正な組織運営）の確立、コンプライアンス（法令遵守）の徹底を求めているのです。ガバナンスコードは13の基本原則と43の項目と多岐にわたっているため、すべてをご紹介することはできませんが、全剣連はそのほとんどについて達成しています。一部、例えば外部理事（専門家でない方）の割合は全体の25%、女性理事40%などは、現時点では達成できていません。しかし目標達成のための今後の計画を示し、了解を得ています。

全剣連では、全剣連の信用力向上及び全剣連運営に外部の客観的な意見を求めることを目的に、令和元年に公益財団法人への移行を申請しました。令和2年9月に内閣府から承認を得、公益財団法人として新たなスタートを切りました。

この公益財団法人への移行は、私はガバナンスコードと表裏一体をなすものと思っており、それぞれから求められていることを着実に実行して行く所存です。

## 財務の改善

全剣連は上述の通り様々な事業を運営しています。そのためには資金が必要です。全剣連の主な収入は称号及び高段位の審査料と、称号及びすべての段位の登録料です（個人からの会費は頂いていません）。近年は、剣道人口の減少もあり、これらの収入は減少しています。一方で事業規模はあまり変わらないため、ここのところ赤字基調です。3年くらい前に合理化等の改善を図りおおむね収支均衡の目途を立てたのですが、直後にコロナ問題が起これ、前提が大きく変わりました。このため、改めて収支改善策を検討しているところです。

## 剣道の安全について

少年・少女を含む多くの方に剣道をしてもらうためには、大前提として剣道が安全なものでなければなりません。全剣連は「生涯剣道」を標榜していますが、この面からも安全性がとても大切です。全剣連では医・科学委員会を中心に、この問題に取り組んでいます。

剣道の安全でまずご報告したいのが、新型コロナ・ウイルス感染症の感染予防です。令和2年3月に剣道の稽古により集団感染（クラスター）が発生しました。全剣連では一時的に稽古の自粛をお願いしましたが、同時に再開の条件を探りました。この時に、宮坂昌之アンチ・ドーピング委員長（現在は顧問医師も兼ねる）、宮坂信之医・科学委員長（同）に、全日本武道具協同組合の協

力で飛沫飛散に関する調査を行っていただき、マスク着用により飛散が約90%抑制できることが分かりました。これによりマスク着用を核とし、その他厚生労働省及び文科省の通達、範士の先生方の意見を集約し、執行部でガイドラインを策定、その上で皆さんに稽古再開を図っていただきました。現在は医・科学委員会が状況の変化に応じガイドラインを適宜改定し、現在に至っています。

また、医・科学委員会は、新型コロナ・ウイルス感染症のみならず、重大事故や熱中症の報告システムも設け、情報収集と対応策の検討も行い、剣道の安全性に多大なるご努力を払って頂いています。

剣道の安全は剣道界にとって極めて重要です。そのためには医師の先生方の経験、知識は極めて重要です。

結びに、先生方の知見をこれからの剣道界に活かしていただけるよう切にお願いして、ご報告とさせていただきます。

以上

## 第56回 全日本医師剣道大会 “柳都・新潟大会”

新潟大会 会長 荻荘則幸



第56回全日本医師剣道大会を令和5年（2023年）4月8日、9日の両日に、新潟市にて開催いたします。新潟市での開催は2回めで、1回めは昭和51年・第11回大会を外山司郎会長の下で開催しました。

新潟市は人口約78万人で日本海側で最初の政令指定都市です。日本一の大河・信濃川（総延長400km）の河口、米の産地の越後平野に位置します。江戸時代から西廻りの北前船「寄港地」で、この稲作に適した気候で、明治21年頃には東京を抜いて日本一の人口を誇りました。当時の新潟市に

は堀が街の中に縦横無尽に張り巡らされ、堀端には今でも残る、数多くの柳が植えられていました。その柳の下を新潟の古町芸妓さん達が歩いてお座敷に向かう姿がいかにも風情と美しさを醸し出していました。

最盛期には京都祇園、赤坂、新橋などと並び称され400人の芸妓さんがいたといわれています。この脈々と受け継がれている新潟の“おもてなしの心”で



大会を開催したいと思います。

新潟市は昔から交通の要衝として栄え、北前船と共に幕末の外国との修好通商条約による開港五港のひとつにもなりました。この新潟港から40kmの日本海の沖合に現在ユネスコの世界遺産登録を目指している佐渡ヶ島があります。徳川家康の肝入りで金山開発が行なわれ、江戸時代初期には年間400kgの金の産出を誇りました。佐渡ヶ島の入り口、両津港には新潟港より高速船・ジェットfoilで1時間で行くことができます。

新潟市はJR上越新幹線で東京駅から早い列車で1時間40分で着くことができます。新潟空港は新潟駅より7.5km北東の日本海沿いに位置しています。国内線は札幌、成田、中部国際、小牧、伊丹、関西国際、福岡、那覇、神戸と結ばれています。高速道路網も発達しており、東京からは約350km、約4時間で来れます。(新潟東スマートIC・ETC専用を降りて会場まで5分です。)

大会会場はJR新潟駅より信越線で南へ8km(約10分)JR亀田駅東口に隣接する新潟県立新潟ふれ愛プラザ(新潟市江南区亀田向陽)の体育館で開催予定です。この亀田地区は古くから“米どころ”と知られ有名な米菓“かめだのあられ、おせんべー”の亀田製菓の所在地です。また、この亀田駅東口には水島新司さんの漫画“ドカベン”で有名な新潟明訓高校や、日本酒・越乃寒梅で有名な石本酒造があります。

4月初旬は新潟では丁度、桜の咲く時期で朝・晩は冷えますが、とても爽やかで過ごしやすい季節です。どうぞ皆様新潟に是非、お越し下さい。

(追記：ホテルについて、皆様お早めに御自身で御予約下さい。)

新潟駅周辺にはたくさんホテルがあります。(駅から)

- ①JR東日本ホテルメッツ新潟(駅直結)
- ②アートホテル新潟駅前(駅直結)
- ③新潟第一ホテル(徒歩2分)
- ④新潟東映ホテル(徒歩5分)
- ⑤アパホテル&リゾート(1001室、徒歩7分)
- ⑥ANAクラウンプラザホテル新潟(徒歩10分)
- ⑦ホテル日航新潟(景色が最高!佐渡が見えます、車で5分)
- ⑧ホテルオークラ新潟(信濃川沿い、天皇陛下も御利用されてます、車で5分)
- ⑨ホテルイタリア軒(古町繁華街近く、車で7分)



柳都・新潟大会のLINE公式  
アカウントを開設しました。  
下のQRコードよりご登録し  
て下さい。



第56回全日本医師剣道大会  
きなせや柳都・新潟

会期：令和5年4月8日（土）・9日（日）

会場：新潟県立新潟ふれ愛プラザ体育館

会長：荻莊則幸（ゆきよしクリニック院長）



## ■初めに

一人でも多くの先生にきなせや柳都・新潟大会参加を！  
《当日の飛び込み参加も可能です！》

令和5年4月8日（土）・9日（日）に、「第56回全日本医師剣道大会 きなせや柳都・新潟」を新潟市江南区亀田向陽の新潟県立新潟ふれ愛プラザの体育館で開催いたします。

本大会は、昭和34年に第15回日本医学会総会（東京）に際して第1回大会が開催され、今回で56回目を迎えます。

新潟県では昭和51年5月に第11回大会を新潟市体育館にて開催しました。来年の大会も全国の剣道を愛好する医師、歯科医師等の全国約400名の会員に御案内を行ない、約150名の参加を見込んでいます。

剣道でよく掲げる言葉として“交剣知愛”があります。この大会は、全国から医療人として毎日、忙しく診療を行いながらも日々稽古に励み、精進している先生方が剣を交えることにより、剣士でもある全国の医療人と親交を暖め、さらに、日本の医療に貢献する事を目的としています。

会長 荻莊 則幸

## ■大会概要

### 1. 大会名称

第56回全日本医師剣道大会 きなせや柳都・新潟

### 2. 主催

全日本医師剣道連盟（会長 野見山 すすむ）

### 3. 主管

新潟大会実行委員会

### 4. 期日

令和5年4月8日（土）・9日（日）

### 5. 大会会場

新潟県立新潟ふれ愛プラザ（体育館）（クリック）

〒950-0121 新潟県新潟市江南区亀田向陽 1-9-1

TEL：025-381-8110

\*公共交通機関をご利用の方

JR新潟駅から亀田駅まで電車で8分、亀田駅東口から徒歩5分

\*お車をご利用の方

日本海東北自動車道新潟東スマートインターチェンジより車で5分

\*新潟空港をご利用の方

新潟空港から直接タクシーで15分

6. 新潟大会長  
荻莊 則幸 (医療法人らぼーる新潟・社会福祉法人豊潤舎 理事長)  
(ゆきよしクリニック 院長)
7. 参加者数  
約150人 (見込み)
8. 参加料  
会員 ¥15,000 (懇親会費込み)
9. 大会内容  
立ち切り、八段の先生による模範演武、年代別個人戦、合同稽古

#### 【大会日程】

4月8日 (土)

- ①受付 11:30~19:00

17:00以降の受付は懇親会場の新潟東映ホテルで行ないます

- ②幹事会 12:00~13:00

(自由稽古 体育館にて 12:00~13:00)

- ③開会式 13:15~13:30

- ④演武 13:40~14:00

日本剣道形

打太刀 中村 茂樹 教士七段 (新潟県・外科医)

仕太刀 鈴木 和彦 教士七段 (新潟県・歯科医)

- ⑤立ち切り 14:20~15:30

元立ち先生 (60歳代 2名、30歳代 3名)

柴田 和弥 教士七段 (大阪府・整形外科医)

林 明人 錬士六段 (茨城県・内科医・前事務局長)

安川 泰樹 錬士六段 (昭和大卒・整形外科医)

安川 紘矢 五段 (旭川医卒・肝胆膵外科)

安川 紗香 五段 (群馬大卒・整形外科医)

掛り手先生

自由参加

試合時間

2分/1人で30人と対戦します。2分間の総本数を競います。

- ⑥自由稽古 15:40~16:30

元立ち (八段・七段の先生)

- ⑦移動 (各自 JR 亀田駅~新潟駅・8分間です。) 17:00~

《亀田駅発 新潟駅行》

15：09 15：28 15：46

16：09 16：28 16：41

17：02 17：25 17：45

◇懇親会（18：00～20：00）（※19：30に中締め、19：30より JAZZ LIVE）

- ・会場 新潟東映ホテル（クリック）  
新潟市中央区弁天2-1-6（JR新潟駅前・徒歩5分）  
先生方の宿泊ホテルのおすすめはホテルオークラ新潟（クリック）、  
ホテル日航新潟（クリック）がグレードが高いです
- ・新潟県医師会長 挨拶
- ・新潟市医師会長 挨拶
- ・次期開催 野見山 すすむ先生 挨拶
- ・柳都 芸妓の舞（クリック）（18：30～）
- ・日比野 則彦カルテット・JAZZ LIVE（クリック）（19：30～20：00）

※懇親会費は参加費に含まれています。

また、同伴者の参加費は8,000円です。

※早めに終了しますので、夜の新潟の街を御散策（？）下さい。

4月9日（日）

①開場・受付 午前6：30～（当日の朝も個人戦参加を受付けます）

《新潟駅発 亀田駅行》

6：04 6：26 6：46

7：06 7：18 7：42

8：15 8：27 8：34 8：55

②自由稽古 午前7：00～午前8：20

（ロビーにておにぎり等を用意します。午前8：00から）

③集合写真撮影 午前8：30～午前8：40

④八段模範演武 午前8：45～午前9：15

香田 郡秀 範士八段、山崎 尚 範士八段、  
野見山 すすむ 教士八段、三條 貞夫 教士八段、  
宮坂 昌之 教士八段、池澤 清豪 教士八段

⑤年代別個人戦 9：30～11：30（コート3面）

2分、3本勝負、トーナメント戦

（\*勝敗が決しない時は2分間の延長戦を行ない、それでも決しない時は判定とする）

第1試合場 A：80歳代リーグ戦

- B：50歳代トーナメント戦  
第2試合場 C：70歳代トーナメント戦・  
D：20、30、40歳代トーナメント戦  
第3試合場 E：60歳代トーナメント戦  
各グループ内で優勝、準優勝、3位（2人）を表彰します  
⑥自由稽古 11：40～12：15  
⑦閉会式（表彰式）12：20～12：30

※4月7日（金）大会前日の稽古会について

午後6時半集合、午後7時開始、午後8時をめぐりに稽古終了

新潟市鳥屋野（とやの）総合体育館武道場にて

新潟市剣道連盟様の稽古会に御参加下さい。（担当：中村茂樹七段）

《体育館・住所：新潟市中央区神道寺南2-3-46 TEL：025-241-4600》

《JR・新潟駅より南へ3km》

お問い合わせ先（中村茂樹メールアドレス：pncjeff2@if-n.ne.jp）

4月7日も稽古後に懇親会が予定されていますので中村先生までお問い合わせ下さい。

## 「位」の剣道に想う

伊藤元明



創立70周年を迎えた全日本剣道連盟の月刊誌「剣窓」をひもとき、剣道八段合格者の発表に医道の剣士宮坂昌之学兄と池澤清豪学兄のお顔を見つけ医師剣連の同僚として心からの祝意と剣道八段位のお慶びを共有いたしました。

古いお話ですが、小学生一年時に父に手をひかれて近くの小野十生範士の道場に通った稽古も戦時の疎開によって中断し、戦後の高校時代に稽古を再開した私です。大学の剣道部時代は医系の医歯薬獣医科大学の春秋2回の大会、夏は東日本医科大学剣道大会の優勝旗と優勝賜杯に青春の夢

をかけていました。剣道の恩師・小川忠太郎範士、大野操一郎範士から「剣道の位くらい」のお話しをお聞きするものの、その「位」の姿は中々眼にうかびませんでした。

平成元年、仙台で開かれた第24回・全日本医師剣道大会（大会々長鈴木仁一先生）の懇親会の席上、大柙一郎範士、宮地誠範士、山崎衛教士の強っての要請で、全医剣連幹事長に就いた私は、「全日本医師剣道連盟報」の発行を使命と考え、平成5年7月に漸く第1号の会報を発行しました。虚飾のない簡素な手作りの会報の巻頭に選んだのが「持田盛二先生の遺訓」でした。その前段の全文をここに紹介いたします。

『剣道は五十歳までは基本を一所懸命勉強して、自分のものにしなくてはならない。普通基礎というと、初心者の中に修得してしまったと思っているが、これは大変な間違いであって、そのため基礎を頭の中にしまいこんだままの人が非常に多い。私は剣道の基礎を体で覚えるのに五十年かかった。私の剣道は五十を過ぎてから本当の修行に入った。心で剣道しようとしたからである。』この遺訓は誠に至言です。次いで翌年の第2号の巻頭に「高野佐三郎、松崎浪四郎を語る」を武道宝鑑より抜粋して載せました。松崎先生とは、久留米藩きっての剣聖で明治中期の剣の達人と称され30年にわたる山岡鉄舟との交わりでも知られ、大日本武徳会の創立に心血を注がれた剣道の大先達です。高野先生のお話しとは『あの当時の試合というものは、今のように打ってから勝つのじゃない。今は面か胴かポカンと打ってから勝ったということになります

が、松崎先生のは勝つ前後の動作というものが、それは非常に尊いもんです。松崎先生などは股立ももだちを取って白髯はくぜんを蓄えた大きな人でしたが、正眼に構えて、一々攻めなければ打たない、タッタッと攻め、ジリジリと攻めて、小手と行って、それが軽いと思うとお面なり……と来るのです。打つ前に攻めて、敵に戦闘力を失わして打つのです。』とあり、持田・高野両先生のお話しは、「位」の剣道の実現する前提の必須条件と  
思いました。

「位」は、人や芸術などの品位・品格と序列の上での位置を表わす言葉ですが、剣道の「位」の立合いの品位・品格とは、持田・高野両先生のお言葉の底に流れる剣の理法に加えて、社会のなかに生きる人間としての人格的価値が包含されて顕現されるものと私考いたしました。

持田先生の五十年をかけて覚えた基礎と心の修行、松崎先生の勝って打つ攻めの教え、そして正中線を制する剣先の攻め合いから相打ちを抜けて中心の面を打つ得意の“相抜きあひぬきの面”の品位・品格ある「位の剣道」のお姿が彷彿と眼にうかびました。

位負けしない剣道とは、医道の剣道人としての人間形成がしっかり内蔵されなければ、剣聖武蔵の「身のかかり」という「動的姿勢」を形成する「正確さ、滑らかさ、拍子、律動、調和」が実現しないと思います。

馬齢を重ね、夢の中でのみ交剣知愛する八十七歳の私の世迷言かもしれませんが、医道人として剣道を愛し、高みの「位」を目指す医剣連の各位に私の想いをおくります。

合掌



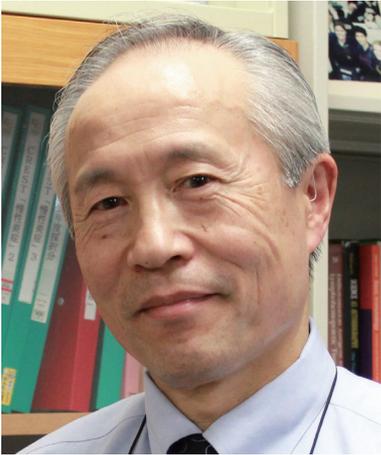
高野範士の下段の構え



高野範士の握り

## 「八段合格記」

宮坂昌之



令和4年11月24日の剣道八段審査会（東京）で合格通知をいただいた。計11回の挑戦だった。過去に一次審査を2回通っていたが、75歳になってから二次審査に合格できるとは思っておらず、まさに望外の喜びである。

中学校では塚原忠雄先生（故人、武専のご出身）、高校では横谷和光先生（故人）の指導を受け、大学院でオーストラリアに留学した際には当時の日体大剣道部長・志澤邦夫先生の指導をいただく機会があった。大阪大学に勤務してからは杉江正敏先生、箕面武道館では園田政治先生、島野大洋先生、田頭啓史先生に格別の指導をいただいた。京都の高段者稽古会では奥園國義先生、島野泰山先生、石田健一先生、石塚美文先生をはじめとする先生方にお世話になった。諸先生方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。また、大阪大学剣友会、同大学教職員稽古会、箕面剣友会、高槻市槻の木剣友会の皆さんには稽古をつけていただき、心より感謝したい。おかげで現在まで剣道を続けることが出来た。

私は競争の激しい分野で医学研究を続けていたこともあり、現役時代はあまり稽古の時間がとれず、十分に稽古ができたのは土、日ぐらいだった。海外を含めて出張が多く、稽古があまり出来ない期間が長く続いた。しかし、約10年前に競争的研究の世界から身を引き、大学院生指導が主務となったことから、以来、週に数回、朝稽古が出来るようになった。私はもともと器用なほうではなく、努力しか能がないので、ここ数年は基本技に重きを置いて練習することに努めてきた。幸い、自分の勤務場所であった大阪大学で教職員朝稽古会が毎週、月、水、金、土とあり、そこで基本稽古に集中することができた。本稽古会の創始者である同大学全学教育推進機構・坂東隆男教授に厚く感謝したい。

私自身、普段の稽古ではいくつかのことに集中してやってきた。一つは、ともかく背筋をしっかりと伸ばして相手に正対することである。これまで他の方々の八段審査のビデオを何度も見てきたが、合格される方は必ず正しい構えから力強い打突を出している。一方、自分の悪い癖として少し前屈みになって構えるところがあった。そこで、毎日、鏡を眺め、自分の稽古のビデオを見



て、背筋を伸ばし、構えを直すようにした。

次に、これまでの審査では相手を打とうとする気持ちが強すぎて溜められず、自分勝手に攻めて応じ技をいただくというパターンが多かったので、この点を矯正できるよう心がけた。特に、自分の間合いから、「攻め」、「溜め」とともに技を出せるように練習を繰り返した。そして足

腰の強化を心がけた。具体的には、家の近くの草っ原があるので、そこで連続面打ちを10本で1セット、それを合計10セット、次に連続小手打ち10本で1セット、それを10セットというように反復練習を行った。

あとは出来るだけ先生に懸かることを心がけた。土、日の箕面武道館での稽古では、折りあるごとに師範の島野大洋範士、田頭啓史教士に懸かるようにした。稽古の後には必ず自分の稽古の中身を思い返し、何が悪かったのか、何が足りなかったのかを反省し、次に向けて何を稽古すべきか考えるようにしてきた。

道場外での工夫として私が行ったのは、仕事部屋や居間など何か所かに竹刀を置き、ふと思った時にはすぐに竹刀を握ってみる、そしてその感覚をからだに覚え込ませるようにする、ということだった。これは全医剣連の大先輩で、阪大剣友会大先輩でもある大柵一郎範士から「竹刀は自分の体の一部と思えるぐらいにならないとだめだ。そのためには思いついたら竹刀を握り、自分の手の一部という感覚を得る努力をすることだ」というアドバイスをいただいたからである。

八段審査当日の朝、サッカーワールドカップで日本がドイツに勝ったという衝撃的ニュースが入り、アンダードッグでも大敵を倒せるのだ、と大いに勇気を貰った。審査会場に行くと、何と受付番号が777で、これはラッキー！と思った。その後は、仲間の方々の顔を見てもなるべく話をせずに審査に集中するようになった。ともかく日頃の稽古どおりにやろうと考えていた。一次審査も二次審査もそれぞれの相手に面を打つことができたが、全体としては決して思うような内容ではなかった。今回もまたもう一つかと思い、防具を片付けているところに結果発表があり、なんと私の受審番号が掲示板に載っていた。集中して無心で受審したのが良かったのかもしれない。

審査は単なる通過点である。私にはまだまだ足りないこと、出来ないことが

多々ある。しかし、何歳になっても向上できる可能性があることを信じて、稽古を続けていきたいと考えている。

全医剣連の先生方には今後とも交剣知愛の中で、ご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。



## まさかの八段合格 in 東京

札幌藤が丘整形外科 池澤清豪



11月24日 受審者795名 合格者7名  
40代1人・50代4人・60代1人・  
70代1人  
合格率0.9%

11月25日 受審者879名 合格者9名  
40代2人・50代3人・60代3人・  
70代1人  
合格率1.0%

まさかのまさかである。この八段審査に合格するとは。九回目の受審で、初めて一次に通り、あらあらという間に二次を通り、そのまま合格してしまった。本人が驚いているのだから、周りの人はもっと驚いていると思う。

審査前からゴタゴタしていた。この1か月で、母親が亡くなり、ねりんピックがあり、当院の病棟でコロナのクラスターが発生し、一息つけたのは審査会の直前であった。

### ■母親の死10月16日

母が死んだ。92歳で母の人生の幕が閉じた。

「私が明るいのはお昼に生まれたから、あなたが明るいのもやはりお昼に生まれたから」と訳の分からないことを言っていたが、死ぬときもお昼の1時に亡くなった。訳の分からない事も、この期に及んでもなぜか辻褄が合う。明るい母だった。

八月中旬、私が名古屋で八回目の八段審査を受けるその日の朝、脳梗塞（トルソー症候群：原発は子宮頸がん）で脳外に運ばれた。すぐに担当医と電話で話し、まずは急を要する心配がないことがわかった。その後、コロナ禍で面会ができないが、自分で食事がとれ、歩くこともできるようになったと報告を受けていた。癌のこともあり、がんセンターの緩和病棟への転医も決まっていた矢先、コロナを併発。その4週間後コロナも陰性になり、9月末がんセンターの緩和ケア病棟に転医となった。面会時間15分、1日2人までの規定の中、6週間ぶりの面会。しかし、そこには私の知っている母の姿はなかった。脳梗

塞・コロナという大きな病気から帰ってきた体は20数キロしかなく、棒のような細い脚と腕、ボーっとした意識のもと、食事はとれず、話しかけても反応は鈍く、生気は全く感じられなかった。それでも声掛けに、痩せこけた顔から時折見せる笑顔に、母の面影を見ることができた。いつもは“おふくろ”と呼んでいたが、なぜか“おかあさん”という言葉で話しかけていた。私の中で死期を悟ったがゆえに、私を育ててくれた子供の頃に戻り「おふくろ」という対等な言葉が閉まわれ、“おかあさん”という自然体の言葉が出てきたと思う。

面会のあと、看護師に呼ばれ、今後の話し合いがもたれた。「延命治療は拒否する・しない？」である。母は92歳、病気と闘っているだろうか？母は眠りながら生きてきたことに感謝し仏様の手を探しているだろう。つらいが延命治療を拒否した。妻がその書類にサインしているとき、窓から空を見るとやわらかい布団のような雲が泳いでいた。涙があふれた。「おかあさん、ごめん。これでいいよね」と。

転院してから3週間後の10月16日朝6時に病院から危篤の電話が入った。すぐに病院に駆けつけるも、もはや手首からの脈は触れず血圧は50以下と推測した。まだ温かい手を握りながら沢山感謝した。お昼になり段々と手が冷たくなり始め、呼吸も浅くなり死期が近づいていることがわかった。1時を過ぎ、私と妻は最後の一息まで手を握り看取ることができた。二人でしっかり看取ってから、医師・看護師に連絡した。午後1時57分永眠と告げられた。安らかな顔であった。母は幸せな一生に幕を閉じました。“ありがとう。たくさんありがとう”心の中で涙とともに叫び続けた。

母は常日頃、手を合わせ祈っていた。何かいいことがあると「それは私が祈っていたからよ」と言っていた。一人っ子にもかかわらず、私の剣道にはさほど興味がなかったのか、あの頃の母親の多くはそうだったように生活が忙しかったのか、小中高の間で試合を見に来てくれたことはなかった。最近も「まだ剣道やっているの？」と聞くぐらいである。そのため、七段合格したときも母には知らせていなかった。知人が「合格したって、凄いね」というと「私が祈っていたから合格したのよ」と言っていたと知人から聞かされた。

こんなこともあった。一浪で、ある私立の医学部に受かっていた。その時、父は出張で母が電話に出て「そんなお金がない」とすぐに断ったそうだ。田舎で育った母にとっては大学の授業料は国立大学（当時4万前後）とそれほど変わらないと思っていたそうだ。まあ高くても10万20万程度。あまり私立大学のことを知らなかったのだろう。2浪が決まった段階で教えてもらったが、家の事情から私も仕方ないと思った。母は「祈っているから大丈夫」と言った。2浪はしたものの、お陰で東京医科大学（当時・年学費28万）に入れたので、今思うと良かった。今、この話は母との食事会で時として笑い話となった。

そして今回、八段審査の2次審査で順番を待っているとき、母の顔を思い出し「祈ってくれよ」とお願いした。思いが通じた。やはり母親はいつでも祈ってくれていたのだ。

母という字の、点々は“おっばい”の点々と思っていたが、違うようだ。口の中に割り算のマーク。それは自分が食べたくても子供に分け与えるという意味だそうだ。「人生いやになったら苦労して育ててくれた母を思え」と誰かが言っていた。母親の存在は本当に尊いものである。祈る母の姿が目浮かぶ。

## ■ねんりんピック

今回で3回目の参加である。最初にねんりんピックにいったのが62歳。書類が送られてきて、それを見た女房が「あなた老人クラブから書類来ているわよ。いつから老人クラブに入ったの？」と聞かれた。確かに差出は“札幌市福祉センター老人クラブ”と書かれている。私は老人の仲間入りしたのである。そういえば、急に膝・腰が痛く、正坐もつらくなってきた。でも、まだ当時、片足を上げて靴下を穿くことができたが、今は、壁に寄りかかりながら穿いている。もう完全に老人である。

今年のねんりんピック開催地は神奈川である。五月に札幌でねんりんピック選考大会が行われ、札幌市のメンバーとして選ばれた。久しぶりの全国大会なので試合が近くなると、子供の遠足の時のように、何度も竹刀・防具等、旅支度の点検を行った。

出発の前日、夕方、何気なくメールをみると選手の先生から「コロナの症状はないのだが抗原検査がプラスとなった。行けない」と報告があった。啞然。すぐに当院に呼んで、再度、抗原検査PCR検査施行。やはりプラスだった。がっかりしたが、もっとも辛いのは本人である。札幌市は4人で戦うことになった。不戦敗は2本負け。彼はポイントゲッターだったがゆえに、この大会のルールからトーナメントを勝ちあがることは非常に難しくなった。しかし、私が2本勝ちすれば4人でも予選は通るかも？と思う浅はかな自分がいた。

開会式は横浜アリーナで行われ、三笠宮彬子女王殿下にご臨席を賜り、巨大スクリーンのもと、司会は女性アナウンサーと榊原郁恵（歌手・神奈川県出身・63歳）で進行した。神奈川県知事黒岩氏の挨拶の後、何人か挨拶が続き、それぞれの県・市の代表者での行進があり（いつもなら選手全員の行進をするのだが、コロナ禍の為代表者のみとなった）、河村隆一（歌手）の君が代、草笛光子（俳優・89歳とは思えない美しい人だった）の応援。アトラクションは音楽で60代70代が青春時代の時の思い出の音楽を披露した。ビートルズ（生バンド・Love Me Do1962年）・ザ・タイガース（生バンド・シーサイドバウンド1967年）トアエモア（本人出演・虹と雪のバラード1972年）おニャン子クラ

ブ（若い子たちの踊り・セーラー服を脱がさないで1985年）など、やはり青春時代の歌は感慨深く開会式の盛り上がりは最高潮に達した。



遠征3日目ようやく大会である。会場は伊勢原市。大会は各県と政令指定都市の67チームが参加し2日間わたり試合を行う。1日目は4チームのリーグ戦で2試合行い、勝者、勝本数などで1チームが、2日目の決勝トーナメントに進むことができるのだ。会場で林明人先生（茨城）と奥島憲彦先生（沖縄）の二人と出会う。また試合直前には野見山延先生からも激励の言葉を頂く。何か久振りの友人にあったような感じの嬉しさがあった。

我がチームは石川県と栃木県と戦った。残念ながらともに負けてしまった。私自身の成績は1敗1引き分けである。私は2試合ともに先に一本を取ったが、“2本勝ちでチームに勢い”と思い、無理に攻めに出してしまい、逆にチームの腰を折ってしまった。自分が恥ずかしい、こんなんでも八段受審していることも尚更恥ずかしい。あれほど稽古したのに。かなり気落ちした。夜、4人で心の傷を酒で癒しに行った。剣道の話で盛り上がり、いつのまにか「また。頑張ればいいや。また、ねんりんピックに出る」という気持ちになった。

翌日は午前中、準決勝・決勝の試合を見た。優勝は神奈川県だったが、相手の山口県の大將の剣道の上手さをみた。スーと入ってトンと打つ。姿勢は崩れない。これだ。あの上手さは目に焼き付いている。こういう人が八段とるんだなあとと思った。

病院から突然の電話。病棟でコロナのクラスターが発生したという。病棟は

閉鎖すること・2週間は手術しないことを決めた。幸いコロナ感染陽性に出た患者さんに重症者はなく、熱もほとんどない状態であった。スタッフは目の回る忙しさであろう。申し訳ない。

午後からは伊勢原市にある日本遺産・大山詣り（おおやま・まいり）を観光。大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。江戸の人口が100万人の頃、年間20万の人が参拝に訪れたとか。大山阿夫利神社参拝するためには、長々とつづく階段（362段）をのぼり、階段の横には多数の旅館やお土産屋が立ち並ぶ。さらにケーブルカーに乗っていかなければならない。ようやく神社に到着。そこから見える絶景の景色は素晴らしいものだった。お焚き上げの場があり、ご利益があると聞いたので昨日の勝敗は忘れて『八段合格』と書いた。隣で友人が見ていて笑っていた。

## ■審査前

ねんりんピックから帰ってきて8日後には審査である。今一步、朝稽古も行かないでいると、家内が「どうしたの？ねんりんんで燃え尽きちゃった？今、審査はただ行くだけになっているから、もう1年に1回にしたら」と言われた。その通りと思った。

土曜日、月例にて前回八段昇段した先生に稽古をいただく。

「構えで打ち気が強すぎて右手に力が、右手に力が入ると面を打っても、まっすぐ打てない。右に逃げる打ち方になる。だからこそ、さあいくぞ！ではない。さあこい！ですよ」目から鱗である。

日曜日、北区に出稽古。同期の八段範士が立ち合いのもと、八段の模擬審査を行う。

「八段受ける人は皆様強いですよ。その人にやみくもに打っても当たらないし、お互いにガシャとなるだけ。どうしたらいいか。相手は隙がないところに打っては来ない。だから隙を見せて、打たせて打つ。引き出して打つ。面を見せて出頭の面。小手を見せて相小手面」これも目から鱗であった。

月曜日、いつもの道場（養心館）範士・古川和男先生が基本稽古で返し胴の指導をする。

「返し胴はパン・パーン（二拍子）ではだめ、パッ・パン（一拍子）」これは見本を見せていただき、なぜ今まで気にして胴を打っていなかっただろう。目から鱗であった。2週間前も先生から出頭の裏面も教わった。

まさかこの3日間の先生方の一言が私の人生を変えるとは知らなかった。だから人生は面白い。チャンスは本当にあらゆるところに転がっているのだと思う。確かに以前から何回も聞かされている指導の言葉であるが、本当に面を打

っても右に流れ、面を打つ機会の捉えもわからず、胴も何気なく返していた。確認ができた。よって目から鱗であった。

木曜日仕事が終わりに、7時の飛行機で東京へ。泊りは東京ステーションホテル、天井が高いため素振りができる。左のひかがみを伸ばし左足の前足部で蹴るように腰・あし・腕の順を繰り返しながら素振り。また相手の間の入り方を確認。この間の入り方は私なりに五つあり、それぞれの相手により変えている。すべて上手くいっているわけではないが。今まで書き記したノートを見ながら就寝。

### ■審査当日

9時ごろ朝食を取り、ストレッチを入念し、12時と同時にホテルを出た。15分後、見慣れた日本武道館に到着。知り合いを探すも誰も見当たらず、あまり人混みのないところで門が開くのを待った。やはり今回は相当受審者が多いのか。人が込み合ってきた。耳にイヤホンをして、ロッキーのテーマ、黒い炎・イーザーライダーのテーマ・トップガンを聴きながらテンションを上げ、ストレッチを行った。

いよいよ開門。いつものように着替えてから受付けに行く。相変わらず違う場所の人が並んで係員ともめている。受付が締め切られ、次は審査番号を受け取る。私は465D。つまり第4会場は450が前列目で469が最後の列。よって私はほぼ後半の終わりに近い15列目。460番が終了すると、審査員の一次休憩がある。私の審査までたっぷり時間がある。まずは何人か審査をみてから、廊下に出て、腰・足・腕の順を確認しながら大きな素振り、何気に隣をみると465Cも素振り。あまり見ないようにして体をほぐす。時間が迫り会場へ。

### ■審査開始

一次審査。私はDなので、まずAを拝見。背も高く体格もいいが大技ばかりを狙う傾向がある。次にC、背は小さいがBを完全に遣っている。強い。さあ私だ。相手が強いので、礼から気合が入る。蹲踞から立ち上がり触刃の間に入るも、相手からの気合はない。私から低い気合を出した。相手も出す。もう一度私から大きな気合を出す。CはBを破った自信がある。背が小さいので、返し胴を先に狙う可能性がある。そこで面に隙をみせたら、一瞬戸惑うだろう。面に隙を見せる、面とくる。出頭を打つ。軽い。残心を早くとる。返し胴が打ちにくい相手と見えるようにする。お互い打たない。小手をみせる。思い通りに小手がくる。相小手面決まる。これで十分。次はA、相手が動いたところの出頭の面が決まる。もう十分。蹲踞し帯刀してもほぼ呼吸に乱れはなかった。初めての経験である。

一次審査発表、合格。初めて一次審査を通った。発した言葉は“よーし”である。二次に備えていた。私も“よーし”と心の中で言った。自分の場所に戻るとCさんと目と目が合う「頑張ってる」と声を掛けられた。

二次審査。次の番号は111Cである。いい番号である。100から113まで。11番目の列。またしても時間はある。素振りは会場内でできた。武道館の天井を仰ぎながら母親に祈ってくれよとお願いした。

二次は初めて、もしかしたらこれで最後になるかもしれない。やるだけのことはやろう。今思うと、気負いなく、非常に気持ちが落ち着いていた。小手は打たない。下手なので。相小手面を引き出してなどと考えると、相手は強いので、小手を打たれる。面で出小手を打たれたらしかたない。面と胴だけ。

審査開始。一人目B。礼から“さあ、来い”の気持ち。二次ができるだけ幸せ。気負いはない。こちらから触刃に入る直前に気合。触刃から交刃まで時間をかけて、ゆっくり息を吐き続ける。Bにとって私は二人目。面に対して返し胴を打つ可能性ある。仕掛ける。裏から出頭の面。感触良し。さあ次はどうする。来るなら来い。じわじわと攻める。5秒10秒きたあ面にきた。みえた。面返し面。いい音が響いた。感触よし。二人目D。同じように落ち着いてゆっくり一足一刀の間合いに。上から乗るよう意識。触刃から交刃入るや否や思い切り面。打ち切る。突き抜けた（気力一致の面）感触良し。相手あせる。ここで我慢。相手交刃の間に入ろうとするも下がらず竹刀抑える。もう一度合気になり、面を見せる。面打ってくる。一拍子の返し胴。感触良し（この返し胴は姿勢も崩れることなく、今まで打ったことのない胴であった）

二人の相手に初太刀と二本目だけは憶えているが、残りの1分をどう使ったか記憶を辿るけれど出てこない。無我夢中だった。構えでひかがみを軽く伸ばすことと腰から打つことだけは心がけた。打たれてはいない。帯刀後やはり呼吸の乱れはなかった。やり切った感があった。が、もちろん合格の確信はなかった。

審査後、自分の場所に戻ると、隣に審査後の人が休んでいた。お互いにねぎらう。彼は二次審査を九回受けているとか、凄い人なんだなあと思った。こういう人が2次には沢山いたのだ。知らなくて良かった。

二次審査発表。111C。合格。え。本当？……すぐに形審査の番号が呼ばれている。嬉しさに浸っている暇はない。剣道形は月1～3回稽古しているが下手くそである。五段六段七段全て打太刀だったので、打太刀がきますようにと願う。「111C 仕太刀」やはりな。何でもかんでも自分の希望どおりにはいかん。

形審査発表。全員合格。時計は19時30分を回っていた。ほっとした。体が震えた。またもや嬉しさに浸っている暇はない。すぐに名前、住所など手続き。

すると目の前に野見山先生が私の前に来て、「おめでとう」と手を差し伸べてくれた。嬉しかった。書類に書き込みながら、ほそっと「世界一弱い八段だな」というと、隣の人も私も同様ですと。その人はたぶんそんなことはないだろう。そして写真。もう会場内は後始末も終わりかけているので、大至急替えて武道館を退出しなければならなかった。

## ■審査後

武道館を出た。あたりは真っ暗だった。武道館の表札に一礼し、夜空に向かい母にありがとうと言った。あの武道館から大きな車が通る道路までの長い下り坂。歩きながら家内に電話した。「えー？えー！本当？よかったね」と言われ、ようやく涙がこぼれた。どれだけ、このくだり坂を悔しいおもいで帰ったことか。こんな嬉しい下り坂はなかった。

その日の夜、たくさんの人からの電話が鳴ったが、取らなかった。出るとそのたびに泣いてしまいそうなのでやめた。この場をお借りして電話をくださった先生方申し訳ございませんでした。布団に入っても「本当に俺でいいのか？」の自問と「よかった」という喜びの興奮で朝4時まで寝むれなかった。

次の日は多少でも冷静になれたので何人かの先生と電話でお話した。夜は大学時代の仲のいい友人が同門会会長となったので、その祝賀会で仲間が集まった。日曜日のお昼に帰った。

## ■札幌へ戻る

審査2日後・日曜日。家内にいつものように千歳空港まで迎えに来てもらった。

車の中に入ると、今、渋滞で遅れたことを話してきた。1分ぐらい経過して、私から

「俺、受かったのだけど」

「そうだね。おめでとう。N先生からもメールが私の所に来て『先生合格凄いです。帰ったらお祝いしてください』ってきたよ」

「ありがたいね」

心の中で、家内が剣道に興味がなくとも、外の人から祝福で攻められとやはり違うよなど。

今夜はご馳走！かなあとも思いつつ、まずは婉曲に言葉を選ぶ。

「お腹すいたなあ」と言うと、即座に

「私も。…イオンに寄ってお弁当でも買う？」

「…そうだね」夢心地は、いつもの生活に戻りつつある。

その日の晩御飯は、あんかけ焼きそばとチーズグラタンのチン食事。

缶ビールも三分の一ぐらい飲んだころ、

「そうだ。はい。おめでとう。乾杯」と。夢心地は去り、生活は完全に戻った。

10日後、家内から合格祝いのプレゼントをもらった。「ありがとう」と言いながら、たぶん私のカードで買ったなあと思った。なぜなら、私以上にウキウキしているからである。自分の分も何かしら買ったに違いない。聞かないことにした。素直に喜んだ、いい旦那である。

## ■最後に

今回、全日本医師剣道連盟から大阪の宮坂昌之先生と私が合格したわけだが、この業界以外の皆さんは私たち二人を全く同じ医師での一括りとして捉えている。よって周りの人々に宮坂先生とすべてが異なることを説明するのが大変である。例えば、「宮坂先生は日本の代表する医者である。京大卒業して阪大そして教授となり、日本の免疫学の権威である。剣道は高校時代インタハイも出て、現在、医師の大会でも常に優秀賞を頂き、強い存在、且つ尊い存在である。私とはラベルもレベルも違う。よって同じ医師の枠で捉えられると宮坂先生に大変失礼に当たる」と説明している。そこまで話をすると、私のことは聞かれない。その差を周囲の皆さんは肌で感じているからだ。

聞かれない私の話をする。私は町医者である。北海道のオホーツク海に面する紋別という田舎町に育ち、小学5年から剣道始めたが、小中高と補欠で、東京医大に入り初めてレギュラー入りとなった。大学時代は東医体準優勝・3位2回・関東医歯薬獣優勝など数々の入賞をはたしたが、同期にめちゃくちゃ強い奴がいて、彼のお陰で入賞させて頂いた。大学卒業後、15年ブランクにて40歳から子供と同時に剣道を再開。1か月に2～3回の稽古にて、すぐに四段を受審し合格。その後、稽古数も同じ1か月に数回であったが年齢の考慮もあり五段合格。順調に昇段したがゆえに全国区である六段を目指すことにした。その頃から範士八段・古川和男先生を師として本格的に週3回以上の稽古をする。六段合格。なら上席に座るために七段を目指す。七段もなぜか一発合格。脳天気・単細胞な私は、なら最高峰の八段を目指そうという気になる。十年後八段初受審。あまりに周りの受審者と歴然とした差があることがわかった。仕事にも余裕が出てきた65歳であった。ここから10年間は昇段を目指そうと思い、稽古数は年180回を目標に置いた。90%以上が上に懸かる稽古で、自分の成長とともに、稽古の量は徐々に稽古の質に変わってきた。特に今年はねんりんピックの選手でもあり、2月はコロナで1回も稽古が出来なかったにもかかわらず、週7～9回、受審まで190回の稽古数であった。

稽古で調子がいいと絶対八段取るぞ、調子が悪いと取れたらいいなとか。い

や絶対無理と思うこともしばしば。さらにここ最近60歳以上の合格者もなく。八段は夢の夢での感覚であった。今回の審査で60歳以上の合格者が16名中6名。このことは我ら高齢者に夢と希望を与えてくれるのではないか。

私はトップアスリートのように運動神経があり、体も柔軟性の持ち主ではない。どちらかという運動も音痴で、前屈で床に手はつかない。最近正座も長くできないのだ。

そんな私がなぜ八段を取れたかと思うと、まずは養心館で古川和男先生という良き師に出会えたからである。五段の段階で養心館に出向いた頃は、先生の稽古を横目で見ただけであった。六段を挑戦し始めた頃から、時々先生に稽古をお願いした。七段を受審する頃には積極的に並んだ。最近2、3番目に並ぶことにしている。何故なら客観的に先生の稽古の姿を拝見できるからだ。間合いの入り方など、とにかく盗む。しかし、いざ自分の稽古となるとこれが難しい。先を読まれる。読まれるから息が上がる。打たされて応じ技、こちらが止まると打たれる。当たり前だが、いつも八段の格の違いを見せつけられていた。

コロナが感染し始めた2年前から養心館では古川先生指導の下、基本が中心の稽古となった。基本をしているせいか、個人や皆のどこが悪い言葉・姿で教えて頂ける。教える側は大きなパワーが必要だ。だから大きな声で注意することもある。この大きなパワーをかけてまで注意してもらうことの、ありがたさに気づいた。家で何回も復習し、すぐに注意されることはなくなった。未だに褒められて伸びるタイプだが、出来た・良くなったといっても、残念ながら子供と違って褒められることはなかった。

今、養心館では1時間の稽古時間の中、基本稽古30～45分である。きついです。でもこれが今回の結果につながったと思う。

基本稽古は、剣道の根幹であることはわかる。昭和の剣聖と呼ばれた持田盛二十段は、「わたしは剣道の基礎を修得するのに50年かかった」という名言を残した。その意味は私の中で、わかったような、わからないような漠然としていた。あるとき、古川先生が「今まで何気なく身につけてしまった悪癖を取るためにも基本は大事だ」と言った。私は納得した。基本は不必要なものを捨て、必要なものを残すことだと。だから持田先生も悩み、剣道の根幹である基本動作の習得に50年かかったことがわかった。

ゆえに大人になってからやる基本は、本当に大変だし、辛い。今まで知らず知らずに身に着いた悪癖を取らなくてはいけないのだから。稽古後、上の先生方の注意も、ほとんどが個人の悪癖である。故に素直に聞かなければならないし、それがまた簡単には治らない。そこで基本を取り入れ、治していかなければならないと、今更だけど思うのだ。

江戸時代の武士論書『葉隠（はがくれ）』に「武士道と云ふは死ぬ事と見つけたり」という一節がある。これは忠義のために命を落とすことも覚悟しなければならないという武士の思想を表す言葉だが、彼らは常に死を意識しながら生に全力を注いでいた。

母の死に直面し、この死生観に立ち、人はいつか死ぬからこそ、生きている時間をいかに豊かにするかが大事と強く思った。そのために、大好きな剣道から自分の成長を促し得るものを学び、周りの人々と影響を与え合って幸福感に浸りたいと思った。

今後は皆様と稽古をする機会があるかもしれない。そして「こんなに弱いなら俺も八段になれる」と思うに違いない。私も打たれながら修練し、剣道の奥行きを楽しんでいきたいと思うのである。

長々と稚拙な文章を読んでもくださりありがとうございます。では筆を置きます。

令和5年1月吉日

## 役員退任のご挨拶

鏡山博行



野見山執行部の発足にあたり何らお手伝いもせず、退任することになり誠に申し訳なく存じ、深くお詫び申し上げます。60有余年の歴史のわずかな期間であります。この医師剣道連盟の役員を務めさせていただいたことを感謝しております。

と申しましても、いつ役員になったのか定かではないのです。最初に医師剣道連盟に関わったのが昭和58年の第18回の大阪大会であり、20年振りに大阪で引き受けた大会でもあり、お手伝いしようということになったのです。前任の滋賀医大から教授として大阪医大へ赴任して間もない時であ

り、新しい研究室作りに忙しくなって、剣道の稽古も疎かになったこともあって、それ以後医師剣道連盟へも足が遠のいたまま十数年が経ちました。本格的にそれに参加するようになったのは、平成12年の第35回広島大会からでその時伊藤元明と立ち合い、初対面でありましたが、堂々たる剣風で大変気持ちの良い剣道を出来たことを思い出します。平成16年大阪の大会を大会委員長として開催して以来、役員末席を汚すことになったのだと思います。役員らしい仕事したわけでもないのに、「役員退任の挨拶」を書くことになりいささか当惑しています。

医師剣道連盟は、男女を問わず、段位を問わず、出身大学、専門分野を異にする剣友同士の出会いの場であります。文字通り「交剣知愛」実践の場であります。特に学生時代、東医体や西医体で剣を交えた仲間が久し振りに再会される機会でもあります。徳島大学の佐藤義典さんとは、阪大の一員として西医体のコート決勝で延長を数回繰り返すという死闘を演じた仲ですが、会うたびにその時のしんどかったことを思い出します。懇親会では各地の銘酒に舌鼓を打ち、地方の伝統文化の一端を楽しめます。出席願った、普段は名前だけしか知らない高名な先生方とも打ち解けて話が出来、心の貴重な財産になっています。

伊藤元明先生の後を受けて、3年間本連盟の会長の役を務めたことが、役員らしい仕事したとってよいのではないのでしょうか。その時は長野、西本、宮坂諸先生に支えていただきました。

4年余り前に脳梗塞で4ヶ月の入院を余儀なくされました。幸い手足の麻痺もなかったのですが、構音障害が残り目下リハビリに励んでいます。転倒の可能性が増したため対人稽古は諦めました。生涯剣道を目指してきたので残念ですが、素振り三昧で剣道を忘れないように努めます。

挨拶を終わるにあって、特に忘れえない言葉を紹介します。1)「打たれてもいいじゃないですか。打たれたくないという気持ちが強いと剣道が駄目になる。」母校大阪大学の師範であった池田勇治先生に、何度となく聞かされた言葉です。2)「あなた方は試合をしすぎる。」大阪府剣道連盟の8段審査受審予定者講習会での小林三留先生の講評の一部です。3)「剣道修練の最終の目標は人を切ることではない。日本剣道形の一本目から三本目までに示されている。一本目は、相手が斬りかかってくるから止むを得ず一刀両断で応じる段階、二本目は相手が斬りかかってくるから応じるのであるが、命までは奪わない。右手首を使えなくすることで戦闘力のみ削ぐもので、剣道修練の第2段階と考えられる。三本目へ進むと、相手が突いてくるのを突きで応じるのであるが、お互いに無傷。仕太刀が位詰めで攻め込み、剣先を両眼の間にズイッと付けて打太刀に手も足も出ない状態した所で許す。規則による判定はできないが、厳然として存在する勝敗。武徳を具体的に表現するもので、剣道の品位を身に付ける最終の段階と考える。」井上義彦先生から直接伺った言葉です。この3人の先生方の言葉は、究極のところ同じことを言われていると思います。そう理解したうえで、次に実践して自分自身の剣道を高めようとしていた矢先病に倒れ、残念ながら諦めました。

これからも「医剣一如」を志して医師剣道連盟が益々発展されることを祈念いたします。

## 71歳で剣道愛好家から 学者に変身

2009年、71歳の時に、不思議な事に当医院に通院している、9年間苦しんでいた酷い Flashbacks の PTSD(心的外傷後ストレス障害)の患者から大きなヒントを得て、従来とは全く異なる世界で初めてと思われる PTSD の中核症状である再起性症状 (Flashbacks, Nightmares) の発生機序を、幸運にも発見した。この患者は腹痛を訴えて病院に行き、細菌性下痢症と診断され、抗生物質と末梢性抗コリン剤 (scopolamine butyl bromide: ブスコパン、ファザー社内資料、動物実験で 0.01% 透過率) を混注した、20 分後に長年苦しんできた Flashbacks が完全に消失した。Scopolamine は末梢性抗コリン剤で常識的に考えて、脳血液関門 (BBB) を透過して脳の中に入らない。脳の中に BBB を透過して入らないので、常識に考えてプラセボ現象と考えるのが普通である。しかし、本人、患者の母は本当に効いたと真摯に訴えた。私はプラセボ効果でなく真実と考え効果機序の解明に努力した。76 歳まで、剣道最高位の八段を目指して剣道に夢中で稽古に精進していたが、とんでもない大きなヒントに出会い好きな剣道を控え、学者の道を 71 歳と言う高齢で歩むことに成りました。

昭和の宮本武蔵といわれる中倉清九段範士に自分の人生で出会えたのは大変な人生だと思っています。中倉清名人は言葉に表せないオーラを感じ、その名人に大切にさせていただき、弟子にして頂き思いがけない人生を送らせて頂きました。広島で



十河勝正

2 度の全日本医師剣道大会を開催し、2 回剣道大会で優勝し、韓国で開かれた世界剣道選手権大会の前日、親善試合に全日本剣道連盟から推薦され台湾の選手と引き分けた。剣道からいろいろな事を勉強させて頂いた。ある稽古会で同年配の広島県警剣道師範が膝を痛めて正座が出来ないのに、稽古と成ると痛みを我慢して一生懸命稽古をやる彼の姿を見て私には出来ない事だと感じたのですが、剣道は彼にとっては天職です。だから出来るのだと思いました。同時に、剣道は私にとっては趣味で、天職は医師と言う職業です。彼から教わり毎日を北大出の息子と 84 歳ですが抵抗なく楽しく頑張っております。

話を元に戻しますが、BBB を透過しない筈の末梢性抗コリン剤:scopolamine は末梢性であるから絶対に透過しないと行った審査員がいた。臨床現場であり得ないことが起こり、それが大きなヒントを得て大きな発見に繋がって行く例は過去に多々ある。私はクリスチャンではないが、旧約聖書の伝道の書に“すべてのもの神よりいで神になりて、神に帰する”と記されている。84 歳まで生きて感じる事はすべて運命に従って生きていると言う事です。BBB を透過し得ない末梢性抗コリン剤が PTSD の中核症状で Flashbacks が極めて酷い患者の脳を透過する事は可能なのか。ここで常識的にプラセボと片付けてしまえば終わりですが、

患者の治り方を観察すると効果ありと考えてなぜ効果があったかその機序を考察した。不思議なヒントに出会う 4 年前に、京大医学部に用事があり、門の向かいに小さい本屋があり中に入ると、大脳の解剖・生理。薬学等の貴重な本が沢山あり 7 冊買った。その買った本の中に運よく、東大脳学者；有田秀雄先生 (2006, system neurophysiology of substances in the brain: neuroscience of mentality and vigor: P167)の本が極めて大きなヒントに成った。ここには脳の中のアセチルコリン脳基底核・Ch 4 (Meynert 核、脳の中には全部で 8 個の ACh 基底核の中がある。その中で一番大きく、アセチルコリン分泌が他の Ch2~5 基底核に比べ最大の分泌量で 90% で最大で、他の Ch 基底核と双向性連結し、Amygdala に強い連結を有する、Mcay,R.N 2007. Tonegawa,S, Redondo,R.L は PTSD については、海馬よりは扁桃核の方が強い関係にあると動物実験で述べている。有田秀穂先生もアセチルコリン脳基底核の中で Ch4:Meynert 基底核一扁桃核に双向性に、Ch1 基底核ー海馬に双向性に連結していると述べている。詳しくは我々の論文 Brain and Behavior をお読みください)が異常に興奮するとアセチルコリン神経を介して細動脈の周囲を取り囲んでいるアストロサイト・capillary endothelial cell のムスカリン受容体を刺激して BBB の変容を来すと述べている。つまり、PTSD の患者は PTSD による異常な脳な興奮(Meynert 基底核の興奮状態の為、BBB の透過性が増し末梢性抗コリン剤：scopolamine が多量でなく、適当量(この件は、いろいろと手助けして頂いた西川徹名誉教授から頂いた論文に記載されている。多量では悪化すると言われているが、scopolamine が元々末梢性抗コリン剤であるので透過性が悪い、運よく少量で透過した様ですね、面白い現象ですと言われた。)、幸運にも脳に入り、Ch4(Meynert)を抑制して、20 分後にファシバックスが完全に消失したと考えられる。

上記の PTSD の発生機序から見出した中枢性抗コリン剤：Trihexyphenidyl (アーテン) が PTSD の中核症状である再帰性症状 (論文報告では、Flashbacks,79%, Nightmares, 88%の効果) に著効した。極めて速効性(1-1.5 時間後に効果発現、1 週間で症状消失、2-3 週間で症状安定)がある事を LANCET に投稿した。審査員は“your paper is high quality and tremendous possibility、but not formatted”と RCT でない為に断られた。次に、ACTA に投稿したら姉妹オープンアクセスジャーナルの Brain and Behavior(2021, 5,14. 受理、PubMed)に移行してくれた。2009 年に大きなヒントが出るまでは、剣道と日常精神科診療のみで学問はしてこなかった。2009 年からは学者に成り PTSD の発せ機序とその機序に基づいた薬：中枢性抗コリン剤：Trihexyphenidyl(アーテン)の治療効果について研究してきた。この研究で最優秀賞も頂き、外国・国内の学会で発表し国内の著名な学者と付き合わせて頂いた。2009 年から私のクリニックに通院した PTSD の患者 87 名が PTSD の中核症状・再帰性症状 (Flashbacks, Nightmares) にほぼ 100%の効果がある。3 名効果があったが、悪条件が出て悪化した例がある。まだ、世界的に PTSD の発生機序は解明されていない。アメリカではケタミン・エクスタシーが話題、日本では抗うつ剤・メマンチンが海馬の神経細胞新生を根拠に話題。しかし、効果が弱い気がする。

ぜひ、私が見出した中枢性抗コリン剤；Trihexyphenidyl を中核症状 (Flashbacks, Nightmares) に使用してみてください。中核症状・再帰性に速効しますので 2 次的症状は自然と消えます。ごく最近,Kahr,H, Kaur R 2020 に Beneficial role of central anticholinergic agent(Trihexyphenidyl) in preventing the development of symptoms in mouse model of post-traumatic stress)詳しくは 71 歳から頑張った論文に詳しく書いてあります。平成 27 年椿山荘東京で開催された“身体疾患と不安・抑うつ研究会(理事

長・久保木名誉心療内科教授、赤坂クリニック・貝谷久宜東邦大学名誉教授、井上猛北海道大学教授、広島大学。山口大学教授、以下 20 名の大学教授が審査員で名前は忘れしました。日本神経精神薬理学会理事長から評議員に成る様に推挙されました。Doi: 10.1002/brb3.2147 Brain and Behavior.が論文です。

2009 年から合計 87 名の PTSD の患者がほぼ 100 % 効果があり中核症状・再帰性の Flashbacks/Nightmares に服用後 1-1.5 時間で効果出て、1 週間後には症状消失。2 週間後には症状安定する。極めて速効性に効く事は私の論文は価値あるものとする。

84 歳に成ると思わぬ病が襲って来るようで、1 か月前に、慢性骨髄性単球白血病にかかり、抗がん剤に苦しんでいます。

しかし、84 歳の高齢まで組織に属さず、広島県で一番古い精神科外来診療所として頑張ってきたのは、初代医科歯科大精神科教授、島崎敏樹先生が患者と共にある心”Mitsain“を忘れないように言われた事だと思う。

剣道で外国にいろんな所に行きました。香港にはミッドナイトベッドで香港カップ優勝 G!で行き、アイスランドは大変感動しました。ノールウェーの定期船に乗る計画がありますが、今、体調が悪いのでしばらく様子を見ます。

任運自在で頑張ります。

同窓の皆様のご健康とご多幸をお祈りします。

fMRI などの先端医療技術で PTSD の発生機序が更に解明される事を願っております。

(東京医科歯科大学精神行動医科学分野同窓会会報2022年より)

## 追記

38歳の時に大祢先生が、広島大学の手の整形に勉強に広島に来ておられ、道場で初めて会い、来年下関で医師剣道大会が開かれるので参加しないかと言われた事がきっかけで医師剣道連盟に参加しました。剣道は38歳から本格的に始めました。昭和56年静岡大会で優勝させていただき、昭和57年に広島キリンビール体育館で第1回目医師剣道大会を開いた。ほぼ一人で準備した。県連の人が助けてくれて、大島功会長も参加された。2回目は県立武道場とホテルが隣接し、大変、上手くいった大会だと思う。ただ、残念なのは中倉清先生が亡くなられて参加出来なかった事である。いろいろな先生と交流し、横関兄弟には大変お世話になりました。

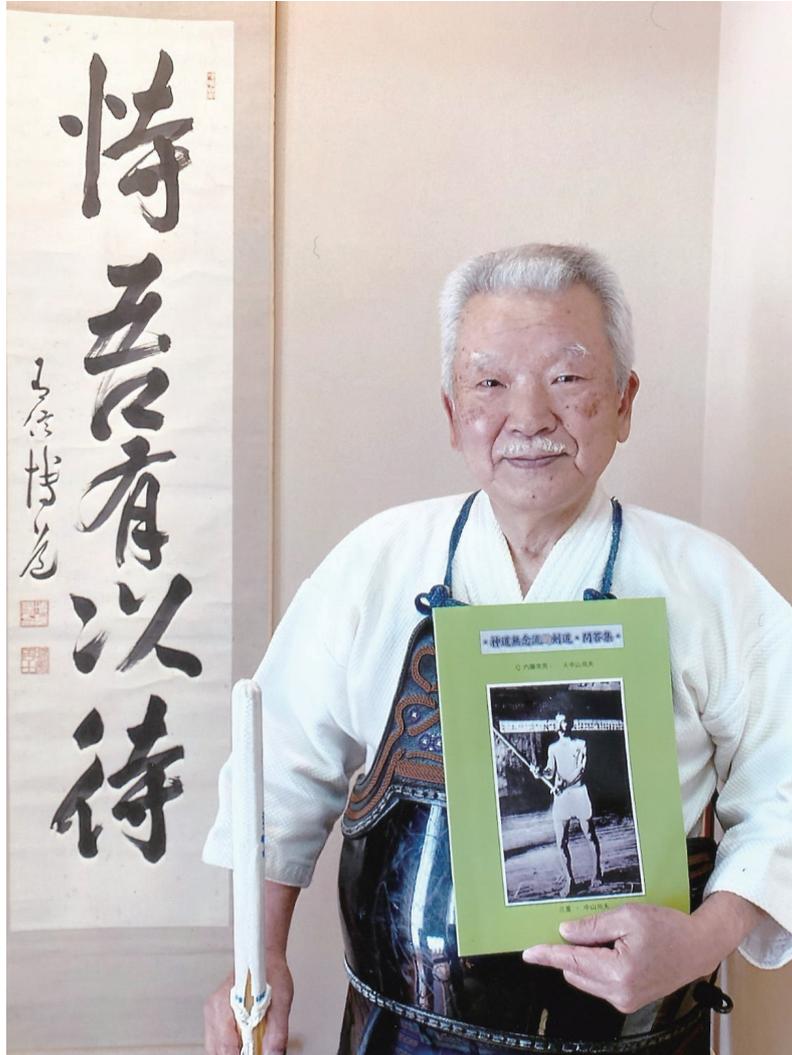
私も85歳で仲間が亡くなって行くのが、大変残念です。天命に任せて行くしかありません。皆さんには大変お世話になっております。

## 医剣士として今あるは、全日本医師剣道連盟のお陰

三重 中山尚夫

大学で弓道一筋に没頭したあと、並行して始めた剣道は33歳の時。今年2023年1月で満83歳になったので剣道歴はまだ50年に過ぎない。大先輩で愛知県の故村瀬先生のお勧めにより本連盟に入会し、初めて試合参加させていただいたのが昭和57年10、11日開催の第17回広島大会だったので、以後、多少の止むをえぬ私的・社会的事情による大会欠場を除き、本連盟のお世話になるのは、今年で42目年になる。初参加当時、本会の元立ちに立たれる指導陣には、「昭和天覧試合」に出場された玉利嘉祥先生をはじめ、小川忠太郎先生、堀口清先生、松本敏夫先生、中倉清先生など錚々たる九段の先生方がおられたが、とりわけ、最も関心の高かった中倉清先生の剣道を直接目にすることが出来たのは、この時が初めてである。この様な雲の上の存在と言ってよい伝説的剣士の方々にお稽古を頂けたのは、偏に医師剣道連盟のお陰であり、いくら感謝してもし切れない思いである。既に全て鬼籍に入られたこれら九段の先生方からそのようなご縁を頂戴した連盟医剣士は、しかし乍ら、今やほとんど残っておられないと思う。続く第18回は久保田鉄工中央体育館で催された大阪大会であったが、稽古終了合図の後、範士九段松本敏夫先生は、ひとり先生の待ち列に取り残された私を呼び止めて稽古を続けて下さった。それが生涯一度切りのご交剣の機会となるのだが、今も鮮やかな記憶として残っている。懇親会の席で松本先生は、独り稽古が最も大切であり、日々独り稽古を欠かしてはならないこと、剣先が何よりも大切なこと、相手の剣を殺してでないと打突してはならないことなどを、師である伝説的名人富山圓（まどか）先生から命がけで学んだ思い出と共に直接熱くお話しくださった。翌年の第19回が昭和59年10月27、28日に催された岡山大会。時あたかも宮本武蔵生誕400年、全日本医師剣道発足25周年にあたる記念すべき大会である。元立ち指導の先生との稽古後の席上、恐るおそる中倉清先生に日ごろの疑問点に対する教えを請うた。それは、当時迷っていた右手の正しい置き方、握り方など、いわゆる手の内についてであったが、先生は汗を拭き拭き、自ら竹刀を手に執って懇切丁寧に説明して下さいました。手の内の作りのこと、打突時は茶巾絞りのごとく手の内を締めること、押し手引き手とは掌中の作用であるということ、歩み足を遣うこと、出来るだけ多くの技を身につけること、など核心的な内容そのものであった。以後、医師剣道大会以外にも当時所属していた国際社会人剣道連盟の例会などで中倉清先生が出席される稽古会には万難を排して参加。稽古までの順番待ちの間は勿論

のこと、先生との稽古後も会が終了するまで、ただひたすらその多彩な技、足捌き、体捌きを見て覚える。それ故に他の元立ちの先生に目もくれることも、稽古列にも加わることもないのが通例であった。夕べの懇親会の後のわずかな機会を見計らって日ごろの問題点を質問し、宿に帰ると記憶が薄れぬようその日の内に一字一句を正確に、そして見取り稽古の記憶を手帳に記録する。そのように集積された記録を、昭和63年5月『名剣士中倉清範士語録そして剣道』と題する冊子にまとめた。その後はさらに中倉清先生の師である神道無念流第七祖中山博道範士とその流派に関する資料を集める中で、中倉剣道つまり〔神道無念流的剣道〕の研究に没頭することになる。その内最も大きな助けとなったのが【大日本帝国剣道形】の記録映像であった。宮内庁倉庫に眠っていた、高野佐三郎範士と中山博道先生範士による【大日本帝国剣道形】の演武の記録映画フィルムが発見され、それがビデオ化されて発売されたのである。時は昭和61年。【昭和天覧試合天・地・人】と題する三巻セットの内、それは天の巻に納められていた。3巻で20万円という高価な資料ではあったが、夢にまで見た中山博道範士の演武を眼前のテレビ画面で見る事が出来た喜びは計り知れないものであった。その映像を何百回も繰り返し見て学習するうちに、中山博道範士当時の竹刀剣道や居合道における刀法が、競技中心の現代とは似て非なものと言ってよいほど異なっていることにも気が付いた。歩み足を使った当時の剣道は、力に頼らず、体格の大小を問わない上に、運動生理学的、解剖学多的にも極めて合理的であり、サスティナブルな武道に徹しているのである。そのような素晴らしい往時の剣道の理合いを解析出来るのは解剖や生理学などの医学知識を納めた我等医剣士の特権ではなかろうか。この全日本医師剣道連連盟に属していたお陰で、上記のような事柄を学び得たことを深く感謝するとともに、今年83歳を迎えた自分に対して、これから果たすべき義務は、その合理的〔神道無念流的剣道〕の啓蒙と普及にあるのだと言い聞かせているこの頃である。



2023年正月撮影・後ろの掛け軸は中山博道範士  
(有信博道)の揮毫  
『吾の以て待つ有ることを<sup>たの</sup>侍むなり』  
(孫子 九篇にあることば)

## 役員退任挨拶

伊藤保憲



私は太平洋戦争の始まった直前に香川県のト真中の片田舎に生まれました。父親は学生時代から柔道に興じ、自宅の自分の部屋には柔道の畳を敷きつめ、柔道仲間を呼んできてはドターン・バターターンとやっていたようです。そのドターン・バターターンが急に聞こえなくなって、静けさが長く続く時は、祖母が気になって様子を見に、お茶をもって行きましたら、どちらかが気を失って倒れていたそうです。「孫にはそんな危ない柔道は絶対にさせない！」ということになり、私には怪我が少ない剣道をさせるということになったようです。

そういうことで、私は、中学、高校、大学、そして大学卒業後は33才の時から（高知県立中央病院外科）からずっと剣道を続けてきました。私は祖母の慧眼（？）のお蔭で大した怪我もせず、80才を越えた今でも剣道が出来ていることに。あの世に行ったらまず祖母に礼をいうつもりです。

私は昭和16（1941）年生まれですので、小学校を卒業するまで剣道とは全く無縁でした。昭和29年に、中学校に進学した当時、高松市内の部活動には剣道部はなく、『撓（しない）競技』という、聞き慣れないスポーツクラブがあり、祖母が「剣道のようなものだ。」というので、それに入部しました。『撓（しない）競技』とは、フェンシングを擬したスタイルの、面・甲手・それに、胴と垂れがワンピースになった“防具”（剣道具とは呼びたくありませんでした）を、トレーニングシャツ（長袖）とトレーニングパンツの上に着装し、運動靴を履き、素面・素小手で打たれても大して痛くは感じなかった『袋撓（ふくろじない）』（現在の竹刀は、4枚の竹刀をそのまま束ねて1本にしていますが、袋撓は、4枚の竹刀の前半分を更に縦に割って8枚とし、刀身は竹刀の先から鍔元まで、布製の袋をかぶせておりました）で、試合時間（3～5分）内に休まず打ち合い、審判員は常時3名で、試合時間内に有効打突の多い方が勝者となる、という判定でありました。まさにフェンシングと同じ判定基準で、今から考えると誠に珍奇なスポーツでありました。

しかし、これが第2次世界大戦の敗戦後7年間、戦勝国GHQによって禁止されていた従来の剣道を再興するための、大先輩方の苦渋の策であったことを

後で知り、大先輩方のご苦勞に感激したものです。

ともあれ、私の剣道人生で、剣道そのものの『刷り込み』は、中学校時代の『撓競技』で始まりましたが、その後、高校に進んで、本来の剣道部への移行も、当時 GHQ によって許されておりましたので、特に異和感を伴うものではありませんでした。



私は岡山大学に進学し、剣道部に入学しました。当時私が岡山大学でご指導を頂いた故・近成（ちかなり）弘範士（岡山大学教育学部剣道主任教授）は、いつも私たち医学部の剣道部員に、「君達は剣道の専門家になるんじゃないんだから、勝ち負けに拘らない『正しい剣道』を目指さなければならない。」「剣道が仕事ににじみ出てくるような稽古、修業を積まなければいけない。」と諭されました。多くの名剣士を生み、且つ育てられた岡山県の名伯楽でありながら、近成先生の本心は、剣道を愛し、剣道の発展を心から願うアマチュア剣士の養成ではなかったか、と今では懐かしく思い出されます。

昭和47年に高知県立中央病院に赴任し、岡山大学第2外科に入局以来、丸8年振りに高知県庁剣道で稽古を再開することが出来、同時に高知県内各所の小・中学校・県立高校の心臓健診を依頼され、仕事と剣道双方で高知県内に深い結びつきが出来ました。

昭和60（1985）年5月に、高知から高松（香川県立中央病院）に帰省し、平成4（1992）年9月27日に、第27回全医剣高松大会を開催することが出来ました。3年先輩の畠瀬 修先生（当時香川医大生理学教授）に大会会長をお願いし、私は運営委員長をさせて頂きました。写真の一枚は、当日行われました日本剣道形演武の一部で畠瀬会長（打太刀）と私（仕太刀）です。

第15回長崎大会（1980、昭和55年）より参加させて頂いたこの大会への参加を、これからも、身体の許す限り長く続けてゆき、一年に一度の稽古と立合いを心ゆくまで楽しませて頂きたいと願っている今日此の頃であります。



## 役員退任挨拶

長野拓三



1 昨年末に、原発性マクログロブリン血症から急性腎不全を併発して、目下、週3回の腎透析を受けている状態ですので、役員を退任させて頂きました。

退任にあたり、一言書き残す様に指示を受けましたので、ここに一筆書き残します。

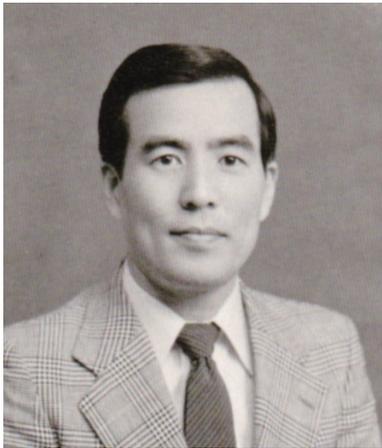
「剣道修業の目標は90点の打ち10本よりも、気剣体一致した100点満点の打ち1本の方が価値がある」と言う視点に立って日頃の稽古に努める事が大切です。

90点の打ちで満足していれば、試合には勝つ事が出来ますが、剣道修業の中心である気剣体が一致した100点の剣道には到達する事が出来ません。

医師剣道家の皆さんに置かれましては、勝負だけに拘らず、真の1本を求める剣道を目指して、頑張ってお下さる事を期待しています。

## 役員退任挨拶

山本晋一郎



全日本医師剣道連盟が塚原先生の御尽力により野見山会長の許で新体制がスタートされましたことは御同慶に耐えません。私も一員として長い間参加させていただいておりましたが81歳を迎え、剣道の実技からも離れたため役員を退任させていただくこととなりました。

私と剣道との関わりは昭和36年（1961年）岡山大学入学と同時に剣道部に入部した時から始まります。生来不器用であったため二段打ちができるようになったのは1年生の終わりごろでした。剣道が続けられたのは先輩の畠瀬 修先生、同期の伊藤保憲君の励ましや支えにより何とか卒業まで続けることが出来ました。

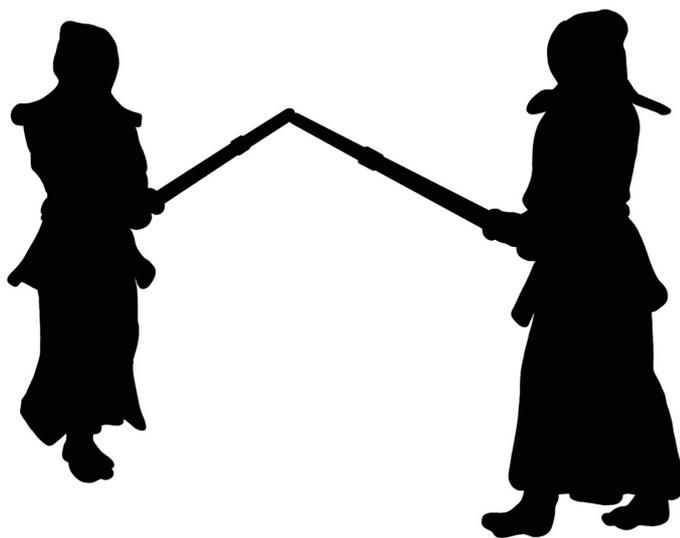
1974年に岡山で大会が開催されそれ以後時々参加させていただく状況でした。大会への参加は令和元年（2019年）の東京大会が最後となりました。

この時は千葉大学の選手4人に岡山大学1人の構成で団体戦優勝といううれしい結果でした。

今まで何とか剣道を継続できたのも諸先輩の御指導のおかげと思いますが、大学の7年先輩である産賀敏彦先生には特にお目にかけていただき先生の御推薦で岡山県剣道連盟会長を引き継がせていただき、15年が経過しております。剣道連盟との関わりから各種講習会などに参加させていただく機会も多く、有難い経験をさせていただきました。今年で81歳を迎え、尚医師としては現役を続けておりますが、実技から3年近く離れて、今後の大会への



参加もむずかしいと考えております。30年以上も続いている本大会が今後も継続され発展されることを衷心よりお祈りいたしております。



## 幹事退任あいさつ

守 正英



今回役員退任に当たって幹事退任挨拶をとの依頼を頂きましたので寄稿させていただきます。

日本医師剣道大会との関わりはと改めて考えてみました。最初に参加したのは第14大会（昭和54年4月8日）第20回日本医学会総会の交歓行事としての大会でした。

大会委員長は海老原千春先輩（慈恵医大剣道部OB会（慈剣会）会長）先輩で慈恵医大体育館が会場でした。宮地誠先生が8段に昇段され実質的な実行者でありました。

当時は誰と誰を立ち合わせようとその場で決めると云う様な状態であり進行を止めないようにする事が本当に大変だったのが未だに思い出されます。

その後16回大会から参加するようになって半世紀を過ぎようとしています。その間第20回千葉大会を綿貫重雄会長・遠山富也運営委員長の下での開催に役員として参画させて頂きました。鬼倉国次先生が8段になられた時でもありました。

小川忠太郎先生中倉清先生堀口清先生に加え千葉県出身の8段の先生方による稽古会も開催されました。中倉先生との会話の機会に恵まれ、剣道にも定石があり、色は右の親指で示すなどをご教授いただいたのを今も鮮明に覚えています。

当日は高野弘正（高野佐三郎ご子息・一刀流中西派）宗家に手を取って御指導頂いた中西派五行の形を演武出来た事は幸せでした。練習中は真剣を使い稽古していたのですが何かあったら場所を汚すので当日は刃引きで演武する様にとの宗家の厳命で真剣の刃を落としての演武でした。

当日小川忠太郎先生と瀧口正義先生の法定の形を拝見出来たのも思い出です。湯村先生と個人戦で戦ったこと、先生の竹刀を折ってしまったことなども懐かしい思い出です。

そして大会参加を重ねながら第44回大会を千葉で開催出来た事です。千葉大会を受託したのは第16回大会で運営委員長として頑張られた遠山富也先生に大会会長として大会を開催してもらいたい気持ちからでした。しかし医師剣道大



会に参加していた千葉の人間は棚橋先生と合わせて3人しかいなかったのです。引き受けてからこの先どうすると悩みました。でも千葉大OBが頑張ってくれました。第16回大会の会計だった鈴木秀先生は大会の残金をまだ持っていて下さり助かりました。霜禮次郎先生による火縄銃のお披露目もすさまじい銃声に椅子から落ちられた会員も居られました。試合会場を多く取ったこと宿舎と会場が隣接出来た事が良かったのでは自画自賛しています。

大会に参加する度に友が出来次に会うのが待ち遠しくなる。思い返すと自分の人生の中の大きな部分を占めていたと思います。

幕末から明治になるまでを研究された永野拓三先生からの著作をいただいたのも医師剣道大会が私にくれた宝物です。読み返しているものの未だにご返事が書けないでいます。

平成27年に手術を受けてから余り竹刀を持たなくなりましたが一刀流の形稽古は週2回何とか続けています。形稽古には剣道の様な打ち込み動作が殆ど無く、剣道をする為には改めて打ち込み動作の習得をしなければ駄目だと最近つくづく思います。勝ち負けの無い、打ったとか打たれたとかの事が無い形稽古(闘争心の欠如した形稽古は褒められた物では無いとは思いますが)の方が楽しいこの頃です。

コロナ禍の為大会開催担当の県は大変な御苦勞をされておられますが去年は沖縄大会が開催され4月には新潟での開催準備が進められています。今後も大会が継続開催される事を願っております。

退任の御挨拶になっていないようになってしまいましたが人生の大半を過ごした医師剣道大会を振り返る事で御挨拶とさせていただきます。

## 役員退任挨拶

中島 進



野見山延会長はじめ役員の方には大変お世話いただきありがとうございます。

神戸で産婦人科クリニックを開業しています中島です。開院して早いもので26年が経ちました。いつの間にか喜寿を迎える齢になりましたが、まだ身体は大丈夫なようですので、当分は診療と剣道も続けたいと思っています。

剣道の方は、コロナ禍以来、外での対人稽古は全くできていません。専ら自宅とクリニックでの一人稽古に勤しんでいます。コロナでいろんな行事や会合、旅行や会食などの機会が激減し、また

診療も少し暇になりました。ただ、その分一人稽古を楽しむ時間が随分と増え、不謹慎ながら私には「これ幸い」のように感じています。

平成20年4月19日（土）、20日（日）の両日にわたり、兵庫県立武道館（姫路市）に於いて、「第43回全日本医師剣道大会」を開催させていただきました。ご参加下さいました先生方ありがとうございました。事務局長としてお世話させていただきましたが、到らぬ点多々あったこと、15年経った今でも思い出たびに汗顔の至りです。大変失礼いたしました。その大会のお世話をさせていただいたことがきっかけだったように思いますが、連盟の幹事をさせていただくようになりました。ただ、診療の都合などで大会にもなかなか参加できず、幹事会も欠席させていただく事が多く、心苦しく感じておりました。

コロナ禍以来、外稽古は全くできていませんし、幹事会にも参加できないことも多く、この度、幹事の職を退任させていただきました。お世話になりありがとうございました。コロナが収まり外稽古もできるようになりましたら、また大会に参加させていただきたいと思います。その節は宜しく願いいたします。

会員の諸先生方の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

## 全日本医師剣道連盟事務局長の退任に際して

前事務局長 林 明人  
(順天堂大学名誉教授)



私は平成29年に故大祢廣伸先生が会長になられた際にご指名をうけ、令和4年3月までの5年間（2017年～2022年）、至らない点も多くあったとは存じますが、本連盟の事務局長を務めさせていただきました。事務局長の退任に際しまして、皆様のご指導・ご協力をいただきまして心よりお礼申し上げます。

2017年（平成29年）は茨城大会、2018年（平成30年）は岩手大会、2019年（平成31年、令和元年）には、東京大会が開催されました。2019年は本連盟が1959年に発足してから創立60周年の年で還暦を記念して新しいロゴやバッヂなどを作成しました。



2020、2021年（令和2、3年）は新型コロナウイルス感染症のために大会は開催できませんでした。そんな中、2020年12月から療養中であった大祢廣伸先生が2021年（令和3年）8月27日にご逝去されました。



(2017年大祢先生の雄姿と2018年の高崎範士功労賞祝賀会)

2022年（令和4年）に大祢先生も楽しみにされていた沖縄大会が3年越しに開催されました。大会の準備はとても大変なことです。とくに沖縄の先生方には3年に渡りお骨折りをいただきありがとうございます。

私毎ですが、2022年3月で定年退職となりましたが、4月から順天堂大学名誉教授・脳神経内科特任教授で仕事を続けてお



ります。剣道に専念という生活はまだ叶いませんが、以前よりは教授会などの会議が減った分多少気楽になりました。

2022年ねんりんピック神奈川大会に茨城県代表で参加することができました。今後とも剣道のある生活を楽しんでいきたいと思っています。



もとより私は剣道が大好きな人間ですので剣道に関わる本連盟の事務局長の仕事を楽しませていただきました。あらためまして、これまでの皆様のご厚情に御礼申し上げます。

2022年の沖縄大会の幹事会にて、野見山すすむ先生が新会長になりました。それに伴い塚原清彰先生が事務局長になられ、新体制がスタートしました。素晴らしい方々がこれから本連盟をリードしてくださることと思います。

私もこれからも本連盟の一員として皆様と一緒に剣道を楽しんでいきたいと思っていますのでよろしく申し上げます。

## 監査就任挨拶

全日本医師剣道連盟 監査 稲村征夫



剣道は医道を志すすべて人々に行って欲しい運動、いや武道である。「よい姿勢である」ということはその人の健康と活動を示すもので、我々人間生活に重要な意味を持っている。剣道の打突運動の特性は肩関節、肘、手首などを中心にした上肢の橈円運動と前方への進展運動と共に両腕の手首を瞬時に緊張に緊張させる運動、腰部中心にした跳躍運動である特殊な動きである。

私事だが、コロナ禍で形稽古も数年にわたり中止せざるを得なくなった。生来の怠け癖も手伝い「老人性うつ病」と勝手に病名をつけて本当の「怠け者生活」に入り3年以上となり人間一度、怠け癖がつくと何もせずただの老人と化し、汚れ物もそのままの生活であった。それを救ってくれたのが剣道であった。素振りでもしようかと木刀を持って、構える、身に入らず、古い教科書を引きずり出して復習するも「老人性うつ病」の回復の目的には効果がなく、鍛錬期には効果があっても、今の自分には効果がないと気づいて今日に至る。

素振りは昔より相手のいない時の基礎動作として重んじられている。素振りは基本的に重要な意味は理解していたが目付と同様剣道を実際やった人には経験的に身にしみていたものだが、「一眼・二足・三胆・四力」と目付の重要視している事も「遠山の目付」や「紅葉の目付」と同様であった。

ついでに護身についてであるが、護身は昔と違って対物的に考えると守備範囲は広く、自分の安全を図るためには十分な訓練をしておかねばならない。





形については、剣道形は剣道の技術のうち最も基本的なものである。これによって姿勢を正確にし、技の癖を去り、太刀筋を正しくし、動作を機敏軽捷にし、打突を正確にし、間合いを知り、気位を高め、気合いを練るなど、非常に重要なものである。

形を演じるに当たっては、十分に真剣対敵の気合いを込め、

少しの油断もなく、一呼吸といえども気を抜くことなく、剣道の法則に従い確実に練習しなければならない。形で重要なのは単にその動作のみならずその精神が慎重さを欠いては、いかに軽妙に演じたとしても一つの舞踊か体操に過ぎない。

コロナ禍も、落ち着いたのか、落ち着かされたのか、老人にとっては、命の問題であり、時間の問題である。現在の医療では寿命をさらに伸ばすことは出来ず、対策としては、悟りの境地をはじめとする精神文化が役立つと考えられます。

## 全日本医師剣道連盟・幹事就任のご挨拶

おぎわら耳鼻咽喉科クリニック 荻原一郎  
東京慈恵会医科大学卒 教士七段



此の度幹事就任を拝命致しましてご挨拶申し上げます。まずは私の剣道履歴から自己紹させていただきます。叔父（郁文館剣道部・岡憲次郎先生が恩師）の勧めで、地元の葛飾区新宿中学で剣道部の門を叩きました。公立中学でありながら2年先輩に凄かれ、確か35人入部した部員も半年もすると8人となる有様でした。私が入学する前年まで武藤英雄先生（後の全日本剣道連盟事務局長・剣道八段）が指導されていて、現在その先輩たちから4人七段が輩出され、現在も八段に挑戦しております。そんな「扱き」が功を奏したのか、中学2

年生の時に3年生に混じり東京都中学剣道大会団体戦（当時は7人戦）で見事優勝致しました。戦績は確か4勝3敗1分の記憶がございます。次いで東京都立墨田川高校でも剣道部に所属しましたが、週に2～3回程度の稽古で指導者もおらず、いわゆる「なんちゃって剣道部」の3年間を過ごしました。しかし現在に至るまで当時の同級生とはことある毎に集まり、剣道以外で親交を深めております。そしていよいよ医学部ですが、私は医学部に入る前に工学部に在籍しており、その間4年間は全く剣道からは離れておりました。そして昭和54年22歳で東京慈恵会医科大学への入学とともに、再び剣道部の門を叩いた訳です。4年間のブランクがあるとはいえ、入学前に半年間だけ受験勉強しながら地元の剣友会で稽古を重ね、秋には3段審査には合格しておりました。しかも剣道部の先輩達はいずれも年下が多く、入部直後から少しだけ大きな顔をできた記憶がございます。入部と同時に東京医大や慶応大学・昭和医大など近隣の医学部へも出稽古に行き、特に





東京医大との練習試合は今でも記憶に新しいところです。現在もあの地下の道場と体育館（内装は新たになりましたが）そのまま、当時の東京医大の1年上に、現在の関東医歯薬獣医科大学剣道連盟会長の荻原幸彦先生がいらっしゃいました。また東京医大の草谷君や慶応の江端君、昭和医大の高宮君そして横浜市立の上村君などが私の同期で、現在も剣道だけでなく

それぞれの分野でご活躍されている姿をフェースブック等で拝見しております。

そして卒業とともに耳鼻咽喉科に入局すると、特に母校・慈恵医大の耳鼻咽喉科は「鼻の手術」に力を入れており、内視鏡手術の創成期にいたため仕事に忙殺され10年以上剣道からは遠ざかっておりました。今思えば福島県郡山市で2年（太田総合病院）、静岡県富士市（富士市立病院）で1年半ほど勤務していた際に、やろうと思えば剣道をやる機会はあったかと思いますが、剣道の「け」の字も頭を過ぎることはありませんでした。その当時「全日本医師剣道連盟」の事を知っていれば竹刀を握ることはあったかも知れません。

そして平成6年1月に生まれ育った葛飾区柴又で耳鼻咽喉科のクリニックを開業し、軌道に乗り始めた頃に地元の剣友会で稽古を再開した頃に「全日本医師剣道大会」があることを知った次第です。この原稿を書くにあたり、あらためて「全日本医師剣道連盟」のホームページの過去の大会一覧を見てみると、私の初参加は平成9年の第32回大会「岩手大会（盛岡）」からでした。その後第38回「福岡大会」・第40回「大分大会」・第49回「長崎大会」（大会出発当日家内がくも膜下出血で緊急入院となり不参加）、の3大会を除き合計20回参加しております。（『第46回・東京大会』は東日本大震災で中止）その間に六段・七段と昇段し、京都演武会や全日本医師剣道大会を目標に自分なりに精進して参りました。

「交剣知愛」が正に剣道の醍醐味、剣道を再開しておよそ30年が経とうとしています。その間全日本医師剣道連盟を介して多くの懐かしい顔に再会し、新たな先生方とも交友を得る機会を得ました。このたび野見山会長より幹事就任に推薦して頂き気が引き締まる思いです。役員の先生方とともに力を合わせて全日本医師剣道連盟の更なる発展にご協力できる機会を与えて頂いたことを感謝致します。

## 幹事就任挨拶

(岡山大学 平成16年卒、教士七段)  
久保田暢人



この度、全日本医師剣道連盟の幹事を拝命致しました、久保田暢人（くぼたのぶひと）と申します。岡山大学の大先輩である山本晋一郎先生の幹事ご勇退に伴い、後任としてご推薦を頂きました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 【略歴】

昭和50年6月生まれ、大阪府出身。  
平成6年3月 大阪明星高校 卒業  
平成16年3月 岡山大学医学部 卒業  
平成17年4月 津山中央病院（岡山県） 初期臨床研修医

平成19年4月 尾道市民病院（広島県） 外科後期研修医  
平成23年4月 岡山大学大学院 医歯薬総合研究科 入学  
平成26年4月 神戸赤十字病院（兵庫県） 外科  
令和3年10月 寺田病院（三重県名張市） 外科・胃腸科  
令和4年10月 阪神そけいヘルニア日帰り手術 Gi 外科クリニック

### 【剣道歴】

小学生の時に大阪の地元道場と警察剣道教室に短期間だけ通ったことがありますが、本格的に剣道を始めたのは、大阪の明星中学校に入学してからです。同高校を卒業するまで6年間、師範の澤田兼男先生（故人、元 大阪府警剣道部師範）、監督の久木山利信先生（現 同校剣道部師範）から基本を中心とした剣道をご指導頂きました。目立った戦績は残せませんでした。主将を務めさせて頂きました。医師を志した4年間の浪人生活は、剣道を封印して勉学に励みました。中高の剣道部で教わった「継続は力なり」や「『根性』とは最後までやり通す『負けじ魂』と『強い意志』である」の言葉を胸に、何とか岡山大学医学部に合格することができ、剣道部と競技スキー部に入部しました。当時の医学部剣道部は西医体の団体戦へのエントリーが危ぶまれるほど部員が少なかったのですが、幸い同期入部者がいて何とか団体戦を組むことができました。その後、部員が徐々に増え、歯学部・看護学部を含めて大所帯となり、主将を務めた学年で中四国医科学生剣道大会や関西医歯薬剣道大会で優勝



することができました。嬉しさの余り剣道部OBの教授室にトロフィーを持って報告に行ったのを覚えています。西医体は6年生の時に団体戦ベスト8まで進むことができました。大学在学中に四段を、初期研修医の時に五段を取得しましたが、その後の異動先では剣道をする機会がなく、大学院生として岡山に戻ったタイミングで六段取得を目標に剣道を再開しました。幸い当時の現役部員は前年に西医体男子団体戦で優勝した実力派メンバーが集まっており、恵まれた稽古環境でした。また畠瀬修先生や小倉肇先生を始めとする岡山大学剣道部OBの先生方からもご指導を頂き、4回目の挑戦で六段に合格することができました。神戸への異動が決まった際、畠瀬先生から「神戸にいい指導者がいる」と先生をご紹介頂きましたが、中高剣道部の恩師 久木山先生の大学時代の同級生であることを知り、「剣道の世界は繋がっているのだな」と実感しました。

現在、神戸市の飛鷹館道場を中心に稽古を続けており、令和2年に七段、令和4年に教士号を取得しました。

#### 【医師剣道大会】

私が医師剣道大会に初めて参加したのは、平成24年に鳥取県米子市で開催された第47回大会です。当時は岡山大学院で研究生活をしていました。岡山大学消化器外科（旧 第一外科）同門の湯村正仁先生（鳥取大学卒）から突然お便りを頂き、「東日本大震災で中断していた医師剣道大会を再開します。若手の参加者を集っているので参加しませんか。」との内容でした。医師剣道大会がどのような大会か知らずに参加したところ、米子の武道館に到着して衝撃を受けました。「生涯剣道」の大きな文字が掲げられた会場は全国から集まった各年代の医師剣道家たちの熱気で溢れていました。特に印象に残っているのは、80歳を超えるご高齢の先生同士の熱心な立会いであり、「生涯剣道」を実践さ

れている雄姿に感動しました。本大会で出会った先生方とは、その後も中央審査会や全日本剣道演武大会や各地の稽古会などを通して交流があり、また全国学会に剣道具を持参して一緒に現地道場に出稽古に行ったこともありました。自分が剣道を続けていく上での『刺激』や『励み』となる心強い存在です。

平成27年に京都で開催された第50回大会では年代別個人戦で準優勝しました。あと一步の悔しい気持ちもありましたが、これまで戦績と縁のない自分にとってはうれしい結果でした。

#### 【さいごに】

剣道を長く続けていると、いろいろなご縁に恵まれていることを実感します。現在の勤務先である Gi (ジーアイ) 外科クリニックは、日帰り腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を専門とする無床クリニックです。理事長の池田義博先生は高知医大剣道部 OB (平成10年卒) であり、ここでも剣道でつながったご縁を感じています。

今回の幹事就任も新たにご縁の始まりであり、微力ながら全日本医師剣道連盟の発展のお手伝いできればと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第47回大会にて岡山の先輩方と  
(左から秋田和俊先生、小倉肇先生、山本晋一郎先生、畠瀬修先生、  
伊藤保憲先生、久保田)

## 事務局長としての責務 ～医道と剣道の架け橋を目指して

全日本医師剣道連盟 事務局長  
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 主任教授  
塚原清彰



この度、林明人先生の後任として、伝統ある全日本医師剣道連盟の事務局長を拝命しましたこと、大変光栄に感じております。

私は1998年に東京医科大学を卒業いたしました。現在、東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野の主任教授を務めさせていただいております。中高時代は巣鴨学園で過ごしました。その間、週一度の授業でしか剣道をしたことがありませんでしたが、大学入学時に御縁をいただき、剣道部としての生活が始まりました。以降、現在に至るまで稽古を続けさせていただき、錬士6段を

頂いております。また、関東医師剣道連盟では稲村征夫会長のもとで、事務局長を務めさせていただいております。

医師としての私の専門は頭頸部外科領域です。頭頸部領域とは頭蓋底から鎖骨上までの範囲です。疾患としては咽喉頭癌、舌癌、耳下腺腫瘍などです。私は医師人生の多くを手術の修行に費やしてきました。そして、振り替えると心から恥ずかしい話があります。私は岩立三郎先生（範士八段）の松風館に所属しております。かつて、岩立先生とお話しさせていただいている際のことです。私の剣道に対し、岩立先生から「ピョンピョン飛んでばかりいないで、落ち着いて構えろ。腕に自信のある外科医だろ。手術みたいにやれ。」とご指導いただきました。その際、私は「岩立先生、外科医は“せっかち”なんです。」と答えました。すると岩立先生は「そうなのか。腕のいい外科医はドシッと落ち着いて、さあなんでも来い、とやるのだと思ってたよ。」とおっしゃったのです。その時はそれ以上の続きはなく終わりましたが、今から思えばなんとも恥ずかしい返答です。当時は東京医科大学八王子医療センターで朝から晩までせわしなく手術・外来・病棟・論文に明け暮れていました。手術経験数・論文数を増やしたいという思いから、急いでいました。そんな仕事の浮いた心にも気づかず、あまつさえ、指摘してくださった師範に対して自分を正当化した

のです。こういう時の範士の先生方の応じ方というのはすごいと思うのですが、「それ以上の追及・説得、正当性の主張」をされません。「何時か分かる時がくる、その時までこの言葉を心の片隅に置いておきなさい」というご指導かと思えます。私が「手術」に関して事の真実を多少感じられるようになったのは、教授職を拝命して何年かが経過してからです。「剣道」を通して「医道」を教えていただき、「道」は同じであると心に刻むことができました。そして、それこそが私が剣道修行をする意味だと感じております。

私自身はまだまだ感情が浮く事も多く、長い医道の途中を歩いている存在です。ただ、道を少だけ前に進めていると感じるのは「自分の感情が浮いた状態になっている」「自分の心を制御しないといけない状況にある」ということが分かるようになった事です。最近、先人・師の言葉というのは「灯台の光」のようなもので、ありがたいと感じます。遠くにいる時はうっすらでも、何となくその方向を目指せます。ある程度近づいてくると明確に目指すべき目的地を指し示してくれます。そして、長い航海（修行）には仲間も必要です。「交剣知愛」、全日本医師剣道連盟会員の皆様の長い修行のお役に少しでもたてるよう、本職の責務を精一杯努めさせて頂きます。ご指導の程よろしく願いいたします。

## 第55回全日本医師剣道大会 めんそーれ沖縄大会を開催して

第55回大会会長 奥島憲彦



第55回全日本医師剣道大会はコロナ禍の波に翻弄された大会でした。2020年4月に開催予定でしたがコロナ感染者増加により1年延期になりました。翌年もコロナ感染の波で延期になりました。2022年4月もまだコロナ感染は収束しておらず、永山盛隆準備委員長含め沖縄県医師剣友会のメンバーと相談し、「県外からの参加者が数名でもいられれば稽古会の形でも良いので大会を開催する。延期はしない。感染には留意して大会を行う」ことを決定しました。全医剣事務局長 林明人先生と野見山延会長からは後押しするサポート

を頂きました。沖縄県で唯一の範士八段田場典宣先生は2020年には絶好調でしたが2022年には体調不良となり残念ながら大会には参加できませんでした。湯村正仁範士八段からは大病を患いしばらく稽古ができなかったが、稽古を再開しており体調を整えて必ず参加するという心強いお手紙を頂戴し、涙が出るほど嬉しい思いを致しました。新会長の野見山 延八段も二つ返事で参加のお返事を頂戴しました。さらには山形の三條貞夫八段も参加の快諾と歯科医師チームで1チーム作り団体戦に臨みたいと要望がありました。また、私の卒業した熊本大学剣道部師範の野口慎一郎範士八段（東京教育大卒）からも「開催するならコロナ感染症の真ただ中でも参加します。」と心強いお言葉を頂戴しました。東京大会の事務局を主導した塚原清彰先生からは詳細な準備の手順書、予算、決算書などを頂戴して大変参考になりました。「だいたい参加者が100人を越えると収支がトントンになりますよ。」と教えていただきました。コロナ感染の波が予測できず、参加者が50人程度になることも想定し、大会会長の仕事として協賛金集めに奔走しました。医師剣友会メンバーの所属あるいは関連する私立病院の理事長、院長にアポをとり、直接お訪ねして少し多めの協賛金をお願いしました。また、私を含め医師剣友会メンバーの有志には多めの協賛金をお願いしました。剣友会メンバーの後押しもあり、参加者が50人でも大きな赤字にならない協賛金を集めることができました。医師剣友会のメンバーは大会に参加することで精一杯のため、大会の運営はすべて沖縄県剣道連盟にお願いしました。親川光俊会長にも快諾いただき、沖縄県剣道連盟の先生方が医

師大会ルールなども含め理解して大きなトラブルなく進行してくださいました。ハートライフ病院事務部長 當銘秀之さん（剣道7段）が大きな橋渡し役を務めてくださいました。また、この20年間、永山盛隆準備委員長がマネジメントし、沖縄剣道連盟主催の大きな大会（年15大会程）には医師剣友会のメンバーを必ず救護係として派遣してきました。その実績も沖縄県剣道連盟から全面的協力が得られた理由だと考えています。大会プログラム作成時は73人の参加申し込みがありました。しかし、直前にコロナ感染の波が到来したため、直前1週間でキャンセルが相次ぎ、最終的には65人の参加者になりました。

大会では感染防止のため、選手は面マスクとフェイスシールドの着用、また観戦の際も距離をとってマスクとフェイスシールドの着用をお願いしました。審判の先生方にもマスクとフェイスシールド着用をお願いしました。開会式の際に参加された先生方のお顔を拝見して、感謝の気持ちで一杯でした。リスクをおかしてコロナ感染ハイリスクの沖縄にわざわざ来ていただいたことに本当に感謝の気持ちで涙がこぼれました。私自身は永山盛隆先生と日本剣道形の演武をさせていただきました。真剣勝負の気持ちで行うつもりでしたが緊張のあまり演武に終わってしまいました。しかし、怪我無く終えることができ、大変貴重な体験をさせていただきました。若くして居合八段を取得された仲井間憲亮先生の素晴らしい居合演武がありました。八段模範演武では野見山延教士八段と三條貞夫教士八段の立ち合い、湯村正仁範士八段と野口慎一郎範士八段の立ち合いがありました。本当に気迫のこもった、八段の立ち合いはかくあるべきという立ち合いを見せていただき感動いたしました。審査形式の立ち合いを行い、自由稽古になりました。夜の懇親会は感染防止の観点からアルコールなしで行いました。その代わり終了時には冷えたオリオンビールとおつまみをお土産としてお渡ししました。アルコールなしということで何人かの先生からはお叱りを頂戴しましたが、本当に申し訳ありませんでした。食事のテーブルは円卓でしたが、隣とシールドで仕切っていただきました。食事の際は黙食で、舞台鑑賞はマスクをつけて行いました。「沖縄芸能の夕べ」と銘うった懇親会でした。琉球舞踊は国指定重要無形文化財「琉球舞踊」認定保持者、県立芸術大学名誉教授の佐藤太圭子先生ご一門による素晴らしい舞踊を披露頂きました。365日舞踊の錬磨に励まれている方々の姿に剣道の修練と重なるものを感じました。めったに見られない棒術と獅子舞の演武がある「武の舞」は迫力満点でした。次いで、「歌三線」は琉球バスの現役バスガイド三線チームが制服姿でビギンの歌や民謡を歌って下さいました。「ヒヤミカチ節」は戦後焼け野が原の沖縄で「七転びしても皆でたちあがろう！」と歌いながら復興を果たした歌です。このコロナ禍の状況から立ち上がろうという気持ちを込めて、会場の参加者で「ヒヤ！ヒヤ！ヒヤヒヤヒヤ！ヒヤミカチ起きり」と合唱しまし

た。伝統のエイサーが「真南風」により太鼓をうちならしながら行われました。最後は会場の参加者全員で太鼓にあわせて「カチャーシ」を踊りました。懇親会終了後に神奈川から参加された聖マリアンナ医大形成外科名誉教授の熊谷憲夫先生から「今まで参加した懇親会で一番良かった。」とお褒めの言葉を頂戴しました。国内外の多くの懇親会に参加された先生のお言葉で苦労が報われました。翌17日は個人戦で八段の先生に優秀選手10人を選んでいただきました。団体戦も欠席が相次ぎチーム編成に難渋しましたが何とか予選リーグ、トーナメントを行うことができました。決勝は歯科医師チームと沖縄県チームの対戦でした。予想に反して沖縄県チームの優勝となりました。花を持たせてくださった歯科医師チームに感謝です。

最高齢参加者の伊藤保憲先生（80歳）と加野資典先生（80歳）の立ち合いを参加者全員で拝見しました。お二人とも八段の受験を続けられているそうです。また八段受験以外に何歳まで元気に立ち会えるかという目標とすべき別の道もあることを我々後輩に示していただきました。両先生と湯村範士の3人を最高齢参加者として表彰できたことは大会会長冥利につきました。本当に有難うございました。この2日間で年齢、段位、出身大学、専門領域の異なる先生方と竹刀を交えて「交剣知愛」を实践して「新しい出会いの場」となったなら幸いです。第56回新潟大会のご成功と剣道を通して新しい出会いがいくつも生まれる大会になって欲しいとお祈りしています。



第55回 全日本医師剣道大会 めんそーれ沖縄 令和4年4月16日～17日 於：沖縄県立武道館

## 事務局からのお知らせ

- ①全日本医師剣道連盟ホームページ  
<http://japan-medical-kendo.jp>



- ②連絡先  
全日本医師剣道連盟事務局 塚原清彰  
住 所：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1  
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内  
F A X：03-3346-9275  
e-mail：tsuka@tokyo-med.ac.jp

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、次のページのPDFを使用するか、上記のメールアドレスまでご連絡下さい。  
※PDFは、全日本医師剣道連盟ホームページ ⇨ 連絡用書類 のページからダウンロードできます。

- ③年会費  
年会費（1万円）を下記口座にお振り込みの程よろしくお願ひします。  
なお、依頼人名には会員の先生のお名前をご記入ください。  
振込手数料は各自でご負担願ひします。

振込先：みずほ銀行  
新浦安支店（店番号 342）  
普通 1984793  
全日本医師剣道連盟事務局  
（ゼンニホンイシケンドウレンメイジムキョク）

- ④寄付  
ご賛同の会員の先生は、ご寄付をよろしくお願ひいたします。  
協賛費は金額を問いません。  
振込先は年会費と同じです。

## 会員登録・変更の手続き

全日本医師剣道連盟 連絡用 PDF

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、この PDF に記載して、以下のいずれかの方法で連盟事務局にお知らせ下さい。

1. FAX する。 03-3346-9275
2. e-mail : tsuka@tokyo-med.ac.jp に添付して送る。
3. 郵送する。 送付先：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1  
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内  
全日本医師剣道連盟事務局 塚原清彰

いずれかに○	入会 ・ 退会	段位・称号変更	住所変更	電話番号変更	メールアドレス変更
--------	---------	---------	------	--------	-----------

以下のすべての項目に記載し、変更点のある場所を大きい○で囲ってください。

ふりがな

氏名

生年月日（西暦）

出身大学

段位称号

郵便物送付先住所（いずれかに○ 自宅 ・ 勤務先） 〒

携帯電話番号

固定電話番号

メールアドレス

備考

## 全日本医師剣道大会記録

回次	開催年月日	開催地	大会会長
第55回	R4/4/16-17	沖縄（沖縄県立武道館）	奥島憲彦
第54回	R1/5/18-19	東京（東京医科大学記念館）	稲村征夫
第53回	H30/4/14-15	岩手（北上市総合体育館）	菅義行
第52回	H29/4/8-9	高知（高知県立武道館）	谷木利勝
第51回	H28/04/2-3	茨城（つくばカピオ）	大柁廣伸
第50回	H27/04/11-12	京都（京都市武道センター）	吉村了勇
第49回	H26/06/05-	長崎（長崎県立総合体育館サブアリーナ）	萬木信人
第48回	H25/06/22-	宮城（仙台市青葉体育館）	今村幹雄
第47回	H24/04/07-	鳥取（鳥取県立武道館）	飯塚幹夫
第46回	H23/04/09-	東京（東日本大震災により中止）	伊藤元明
第45回	H22/04/10-	三重（県営サンアリーナ）	中山尚夫
第44回	H21/05/23-	千葉（千葉ポートアリーナ）	遠山富也
第43回	H20/04/19-	兵庫（兵庫県立武道館）	松井英互
第42回	H19/04/07-	大阪（豊中市立体育館）	宮坂昌之
第41回	H18/04/15-	神奈川（相模女子大体育館）	野見山延
第40回	H17/04/16-	大分（大分別府市民体育館）	広瀬信道
第39回	H16/04/17-	大阪（大阪コスモスクエア国際交流センター）	鏡山博行
第38回	H15/04/05-	福岡（宗像ユリックス）	加野資典
第37回	H14/09/14-	札幌（札幌市総合体育館）	道下俊一
第36回	H13/04/14-	熊本（熊本大学総合体育館）	笹原 登
第35回	H12/04/15-	広島（広島県立総合体育館武道場）	十河勝正
第34回	H11/04/03-	東京（東京医科大学記念館）	山崎 衛
第33回	H10/11/21-	鹿児島（鹿児島アリーナ）	楠元忠雄
第32回	H9.9.14	岩手（岩手県営武道館）	中村好和
第31回	H8.9.22	沖縄（沖縄県立武道館）	永山 薫
第30回	H7.4.9	愛知（江南市民会館）	村瀬守男
第29回	H6.10.16	東京（東京医科大学記念館）	宮地 誠
第28回	H5.10.10	福岡（県立久留米体育館）	熊丸 治
第27回	H4.9.27	香川（高松市総合体育館）	島瀬 修

回次	開催年月日	開催地	大会会長
第26回	H3.4.17	京都（京都市武道センター）	横関誠夫
第25回	H2.9.23	茨城（つくば第3県民センター）	大禰一郎
第24回	H1.9.15	宮城（仙台・県武道館）	鈴木仁一
第23回	S63.9.11	鳥取（米子・市民体育館）	中曾栄吾
第22回	S62.4.4	東京（東京医科大学記念会館）	大禰一郎
第21回	S61.9.14	京都（京都市武道センター）	根本浩介
第20回	S60.9.15	千葉（千葉県武道館）	綿貫重雄
第19回	S59/10/27-	岡山（岡山武道館）	日下 連
第18回	S58.4.9	大阪（久保田鉄工中央体育館）	中村周吉郎
第17回	S57.10.10	広島（キリンビール広島工場体育館）	藤井 実
第16回	S56.11.7	静岡（市民体育館）	内田智康
第15回	S55.5.25	長崎（市民体育館）	前田信良
第14回	S54.4.8	東京（東京慈恵会医科大学体育館）	海老原千春
第13回	S53.9.23	愛知（名古屋・愛知県スポーツ会館）	三輪田薫
第12回	S52.11.13	山口（下関市立山ノ田中学校体育館）	桃崎正香
第11回	S51.5.16	新潟（県立総合体育館）	外山司郎
第10回	S50.4.6	京都（武徳殿）	
第9回	S49.5.25	熊本（県武道館）	笹原 登
第8回	S48.10.13	札幌（札幌体育館）	内藤詩郎
第7回	S47.9.15	高知	川田茂宏
第6回	S46.4.3	東京（日本武道館）	伊藤京逸
第5回	S45.10.24	京都（武徳殿）	高岡謙次
第4回	S44.8.15	宮城（仙台・県立スポーツセンター）	松川金七
第3回	S43.2.18	東京（衆議院第一議員会館剣道場）	伊藤京逸
第3回	S42.4.1	名古屋（名鉄体育館）	伊藤京逸
第2回	S38	大阪（大阪城内・修道館）	伊藤京逸
第1回	S34	東京（後樂園・全剣連・中央道場）	伊藤京逸

## 編集後記

全日本医師剣道連盟報 第31号をお届けします。

昨年4月、故大柵廣伸前会長を引き継ぎ、野見山延先生が本連盟会長に就任されました。野見山新会長のもと新体制が構築されましたので、本号では新役員の先生方からのご挨拶と、新体制への移行に合わせて役員を御勇退された先生方から退任のご挨拶を頂き、掲載いたしました。

2度の延期を乗り越えて開催された、第55回全日本医師剣道大会（めんそーれ沖縄大会）について、大会会長・奥島憲彦先生より開催記をご寄稿いただきました。大会開催の御苦勞が推察されます。第56回全日本医師剣道大会（柳都・新潟大会）は、もう目前に迫っております。大会会長・荻莊則幸先生からのご挨拶と大会要項を掲載いたしました。

昨年は池澤清豪先生、宮坂昌之先生が八段に合格されました。必読の八段合格記をご寄稿いただきました。

全日本剣道連盟専務理事・中谷行道先生からは全剣連の現状や安全に対する取り組みについて、伊藤元明先生からは剣道の「位」についてのご寄稿を頂戴いたしました。

新型コロナウイルス感染以前の生活がだいぶ戻ってきていますが、非日常であったはずのこの数年間が日常と感ずるようにもなり、常識が何か戸惑うことがあります。そのような中でも自らの中心を定め、進んでいかなくてははいけません。本号は、いずれの原稿からのご寄稿いただいた先生方からの強いメッセージが心に響く、内容の濃い連盟報になったと思います。剣道のみでなく、変化する「日常」の中での動じない心構えにも通じる、まさに今読むべき示唆に富む内容と思われまふ。是非ご覧ください。

最後に、本連盟会員の皆様方のご健勝と本連盟の益々の発展を祈り、編集後記といたします。

令和5年3月

事務局長補佐 稲垣 太郎



令和5年3月

【事務局】

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1  
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野内  
事務局長 塚原 清彰

FAX：03-3346-9275

e-mail：tsuka@tokyo-med.ac.jp